

授業実践事例編

授業実践事例（授業づくりの8つの視点）

番号	学級等	教科・領域等	単元（題材）名	授業の視点	ページ
事例 1	小・知	算数	重さを調べよう	① ⑤	68
事例 2	小・知	生活単元学習	転校した友だちを元気づけよう	③ ⑧	72
事例 3	小・自	自立活動	いろいろな顔	③ ⑥	76
事例 4	小・自	自立活動	ペットボトルボウリングをしよう	① ⑤	80
事例 5	小・言	算数	あまりのあるわり算	④ ⑥	84
事例 6	小・言	国語	漢字の広場	⑥ ⑧	88
事例 7	小・言	自立活動	ことば遊びをしよう	⑥ ⑧	92
事例 8	小・言	国語	かるたのひみつを読もう	② ③ ⑥	96
事例 9	中・知	作業学習	オルゴールボックスを作ろう	① ④	100
事例 10	特・高	自立活動	上手に聞こう	③ ⑦	104
事例 11	特・高	総合的な学習の時間	和（日本文化）を味わおう	② ③	108
事例 12	特・中	数学	ボウリングをしよう	⑥ ⑦	112

- <学級等> 小・知 : 小学校知的障害特別支援学級
 小・自 : 小学校自閉症・情緒障害特別支援学級
 小・言 : 小学校言語障害特別支援学級
 中・知 : 中学校知的障害特別支援学級
 特：中 : 特別支援学校中学部
 特：高 : 特別支援学校高等部

<授業づくりの8つの視点>

- | | |
|--------------------|------------------|
| ①実態把握，目標設定の工夫 | ②場の工夫 |
| ③導入・展開・まとめの工夫，単元計画 | ④発問・応答・賞賛などの言葉かけ |
| ⑤特性に応じた支援 | ⑥教材・教具の工夫 |
| ⑦ティーム・ティーチング | ⑧評価の工夫 |

授業実践事例の見方について



授業づくりの8つの視点をもとにして、様々な工夫やアイデアを凝らした授業の実践事例を紹介しています。1つの事例は、4ページ構成となっており、同様の形式でまとめであるため、分かりやすく参考になると思います。実践例の詳細は、次のとおりです。

実践例1 算数「重さを調べよう」

小学校知的障害特別支援学級

1 ページ

1 単元名 重さを調べよう

<児童の実態> 男子2人(小3:2人)

- ・既習の加減算はできる。長さをリットルで表したりする等、単位を混同してしまう児童がいる。
- ・細かい目盛りを読むことが苦手な児童がいる。
- ・視覚的な手がかりによって注意を向けやすくなったり、理解が促進されたりする。

2 単元の目標

- 身のまわりの具体物の重さを、はかりを用いて測定することができる。重さが測りにくい場合は、重さについての加法や減法を適用して、重さを求めることができる。(技能)
- はかりの目盛りの読み方や使い方、長さ、かさ、重さの単位のしくみが分かる。(知識・理解)

3 本時の指導

(1) 目標

- 減法を適用して、容器に入っている小豆の重さを求めることができる。
- 加法を適用して、小麦粉や砂糖をレシピ通りの重さに測り取るることができる。
- 一の位が0の、3位数-2位数や3位数+2位数の計算を間違いなく正確にすることができる。

(2) 展開

学習の内容及び活動	児童生徒への手立て<全体、個別>
1 本時の課題を知る。 ② そのままはかりにのせることがむずかしいものの重さをもとめる	・細かい目盛りを読むことが苦手な児童が、自信をもって学習に取り組めるようにするために、本時の学習ではデジタルのはかりを使用する。
2 容器の中の小豆だけの重さを計算で求める。(①の重さ-②の重さ=③の重さ)	・児童の様子を見て、必要ならば、教師が図を使いながら説明することで、小豆だけの重さを求めるための考え方の手がかりがつかめるよう支援する。
3 小麦粉100gと砂糖30gを測り取る方法を考え、発表する。(④の重さ+⑤の重さ=100g以上、⑥の重さ)	・お楽しみ会で作る「ほろほろクッキー」のレシピを取り組むことで、その材料を用いることで、学習に対する意欲を高める。
4 小麦粉100gと砂糖30gを、実際にはかりを使って測り取る。	・児童の様子を見て、必要ならば、小豆の重さを求める手順を再確認したり、教師が図を使いながら説明したりすることで、考えの手がかりがつかめるよう支援する。
5 本時の学習を自己評価する。	・自己評価は、ノートに書いた本時の課題の右側に、等を使って記入するよう指示しておく。 ・自己評価が低かった時は、その理由を児童に尋ねる。その原因を探り、次時以降の学習に生かす。

4 評価

- 減法を適用して、容器に入っている小豆の重さを求めることができたか。
- 加法を適用して、小麦粉や砂糖をレシピ通りの重さに測り取ることができたか。
- 一の位が0の、3位数-2位数や3位数+2位数の計算を間違いなく正確にすることができるか。

事例番号、教科・領域名、単元(題材)名、校種・障害等が分かるようなタイトルにしています。

指導略案を示しました。児童生徒の実態に基づき、どのような授業を実践したのかが分かりやすくまとまっています。目標、評価、支援の手立てが具体的に記されていますので参考にしてください。

①実態把握、目標設定の工夫

個別の指導計画に基づき本時の目標の設定

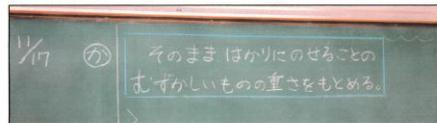
個別の指導計画の指導目標に基づいて、本時の目標を設定した。

個別の指導計画の短期目標(技能)	本時の目標
○学習した四則演算の問題について、9割正答できる。	○一の位が0の、3位数-2位数や3位数+2位数の計算を間違いなく正確にすることができる。

①実態把握、目標設定の工夫

児童が自己評価できるような、児童向けの目標の提示

授業の最初に、「授業の終わりにどうなっていれば目標が達成できたといえるのか」を、児童自身が判断できるような、具体的な児童向けの目標(右写真の②(課題の意))を授業の始めに提示した。また授業の最後



には、目標が達成できたかを自己評価する時間も設定した。

⑤特性に応じた支援

得意なところを生かし、苦手なところを補う工夫



この授業を受けている2人とも、視覚的な手がかりによって学習がスムーズに進む児童である。

そのため、課題把握の際、空の容器をはかりに載せ、容器だけの重さを確認し、次に、その容器に小豆を入れてみせながら、小豆だけの重さを測ることが課題であることを伝えた。このように、実演したり、図で説明したりといった、視覚的な手がかりを多用することで、課題把握がスムーズに進んだ。



細かい目盛りを読むことが苦手な児童のために、この実践では、上皿はかりではなく、デジタルのはかりを使用した。

これにより、児童が本時の学習に対して苦手意識をもつことなく、積極的に取り組むことができた。

2 ページ

授業の8つの視点の中から、この授業で特に力を入れた点、工夫した点等について、活動の様子や板書、教材等の写真を紹介しながら、説明しています。この授業のウリともいえます。様々なアイデアがとても参考になります。丸数字は、便宜上つけた8つの視点の番号となっています。

授業の視点シート

3 ページ

授業の視点	工夫したことや配慮したこと
① 実態把握 目標設定の工夫	① 実態把握、目標設定の工夫 ◎個別の指導計画に基づく本時の目標の設定 個別の指導計画の目標をもとに、本時の目標を設定した。毎時間の授業の目標が、個別の指導計画と関連したものになってこそ、一貫した指導が展開できると考えた。
② 場の工夫	◎児童が自己評価できるような、児童向けの本時の目標の提示 特別支援学級で学ぶ児童生徒だからこそ、1時間の授業の目標を児童生徒が理解できる言葉で教師が明示して、児童生徒が目的意識をもって授業に臨めるようにしたい。目標は、授業が終わったときに、達成できたかを児童生徒自身が評価できるように、できるだけ具体的なものにするよう心がけている。
③ 導入・展開・まとめの工夫、単元計画等	
④ 発問・応答・賞賛などの言葉かけの工夫	⑤ 特性に応じた支援 普段の生活や学習の様子を観察したり、知能検査等を活用しながら、児童の認知面で実態を把握するよう心がけた。その結果をもとに、児童が自信をもって授業に臨めるよう、得意なことを生かし苦手なことを補う支援を考えた。
⑤ 特性に応じた支援	<得意なことを生かす支援> この事例の児童は2人とも、知能検査によって、視覚的な手がかりを活用した学習が効果的であると思われました。そこで、実演してみせる、図や絵を使って説明する、目標や課題を口頭だけでなく文字で黒板に明示する、といった視覚的な手がかりを効果的に用いて授業を進めるようにしました。
⑥ 教材・教具の工夫	<苦手なことを補う支援> 一人の児童は、視力が正常でも、細かいことに困難がありました。そこで、紙を大きくして重さが測れるように、デジタル用しました。 本時のねらいは、加法減法を用いて日常生活ではデジタルのはかりを使うことが多いという現状も考慮しました。
⑦ ティーム・ティーチング	
⑧ 評価の工夫	

左側は、授業の8つの視点から、この授業でのウリとするもの（2ページで紹介した視点）を水色で示しました。

右側には、取り上げた視点について、どんな工夫をしたのか、それはどうしてなのか等、さらに解説を加えました。より「なっとく」していただけたらと思います。

ワンポイントアドバイス！

せっかくつくった個別の指導計画だから…、授業に生かそう！

個別の指導計画をつくったあとは、個人情報だから学校のカギ付き書庫で大切に保管しておしまい、というのではもったいない！せっかくつくった個別の指導計画は、日々の授業に積極的に活用しましょう。

活用する方法はいくつかあると思います。その一つが、個別の指導計画に書いた目標を意識しながら、毎時間の授業の目標を設定することです。

例えば、この実践では、

個別の指導計画の目標（抜粋）	→	本時の目標
○学習した四則演算の問題について、9割正答できる。		○一の位が0の、3位数-2位数や3位数+2位数の計算を間違わずに正確にすることができる。

というつながりを意識して、目標を設定しました。

国語や算数で学習したことを、生活場面で生かそう！

通常の学級の授業ならば、問題文を読んで、解き方を友達に説明して、答えを求めたら課題達成となることが多いです。でも、この授業では、学習したことを生活場面で生かせるよう、生活単元学習の内容と結びつけた活動を取り入れてみました。

学期末のお楽しみ会では「ほろほろクッキー」を作ることを計画していました。そこで、この授業では、レシピを見ながら材料を測り取る練習をしながら、重さの加減算の学習を進めました。



そして、この授業の数日後に行われたお楽しみ会では、子どもたちは、この授業で学んだことを生かして、材料を正確に測り取ることができました（一緒にクッキーを作った下級生に、材料の測り取り方を得意げに説明している姿が印象的でした）。

このように、国語や算数で学んだことが、生活場面で生かされるような学習を取り入れられることは、特別支援学級ならではの面白さであり、醍醐味だと感じています。

このページは、自由コーナーとしました。授業の8つの視点に限らずに、この授業をとおして、伝えたいことや紹介したいこと等を自由に示しました。授業づくりのコツ、ワークシートの紹介や教材の作成方法など、参考になる情報が盛りだくさんです。

事例で紹介した様々なアイデアや工夫を参考にしてみましょう。児童生徒の実態に応じて、アレンジしていくことも大切ですね。



実践例1 算数「重さを調べよう」

小学校知的障害特別支援学級

1 単元名 重さを調べよう

<児童の実態> 男子2人(小3:2人)

- ・既習の加減算はできる。長さをリットルで表したりする等、単位を混同してしまう児童がいる。
- ・細かい目盛りを読むことが苦手な児童がいる。
- ・視覚的な手がかりによって注意を向けやすくなったり、理解が促進されたりする。

2 単元の目標

- 身のまわりの具体物の重さを、はかりを用いて測定することができる。重さが測りにくい場合は、重さについての加法や減法を適用して、重さを求めることができる。(技能)
- はかりの目盛りの読み方や使い方、長さ、かさ、重さの単位のしくみが分かる。(知識・理解)

3 本時の指導

(1) 目標

- 減法を適用して、容器に入っている小豆の重さを求めることができる。
- 加法を適用して、小麦粉や砂糖をレシピ通りの重さに測り取ることができる。
- 一の位が0の、3位数-2位数や3位数+2位数の計算を間違いなく正確にすることができる。

(2) 展開

学習の内容及び活動	児童生徒への手立て<全体、個別>
1 本時の課題を知る。 ㊦ そのままはかりにのせることが むずかしいものの重さをとめる	・細かい目盛りを読むことが苦手な児童が、自信をもって学習に取り組めるようにするために、本時の学習ではデジタルのはかりを使用する。
2 容器の中の小豆だけの重さを計算で求める。(小豆だけの重さ=全体の重さ-容器だけの重さ)	・児童の様子を見て、必要ならば、教師が図を使いながら説明することで、小豆だけの重さを求めるための考え方の手がかりがつかめるよう支援する。
3 小麦粉100gと砂糖30gを測り取る方法を考え、発表する。 (はかりの目盛りが、容器の重さ+100gになるまで、小麦粉を入れる)	・お楽しみ会で作る「ほろほろクッキー」のレシピを見せ、測り取る物として、その材料を用いることで、学習に対する意欲を高める。
4 小麦粉100gと砂糖30gを、実際にはかりを使って測り取る。	・児童の様子を見て、必要ならば、小豆の重さを求めたときの手順を再確認したり、教師が図を使いながら説明したりすることで、考えの手がかりがつかめるよう支援する。
5 本時の学習を自己評価する。	・自己評価は、ノートに書いた本時の課題の右側に、△、○、◎等を使って記入するよう指示しておく。 ・自己評価が低かった時は、その理由を児童に尋ねることで、その原因を探り、次時以降の学習に生かす。

4 評価

- 減法を適用して、容器に入っている小豆の重さを求めることができたか。
- 加法を適用して、小麦粉や砂糖をレシピ通りの重さに測り取ることができたか。
- 一の位が0の、3位数-2位数や3位数+2位数の計算を間違いなく正確にすることができたか。

①実態把握, 目標設定の工夫

個別の指導計画に基づく本時の目標の設定

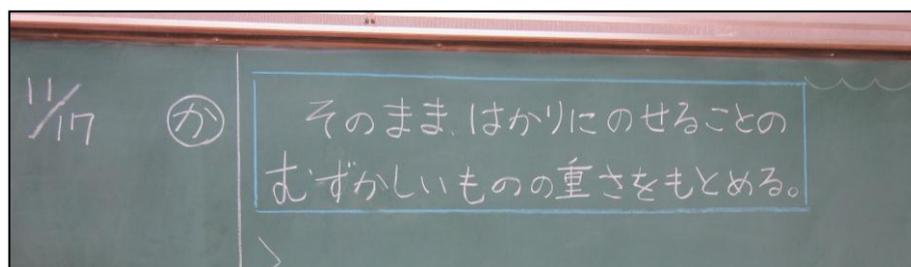
個別の指導計画の指導目標に基づいて、本時の目標を設定した。

個別の指導計画の短期目標 (抜粋)	→	本時の目標
○学習した四則演算の問題について、9割正答できる。		○一の位が0の、3位数-2位数や3位数+2位数の計算を間違いなく正確にすることができる。

①実態把握, 目標設定の工夫

児童が自己評価できるような, 児童向けの目標の提示

授業の最初に、「授業の終わりにどうなっていれば目標が達成できたといえるのか」を、児童自身が判断できるような、具体的な児童向けの目標(右写真の㊦(課題の意))を授業の始めに提示した。また授業の最後には、目標が達成できたかを自己評価する時間も設定した。



⑤特性に応じた支援

得意なところを生かし, 苦手なところを補う工夫



この授業を受けている2人とも、視覚的な手がかりによって学習がスムーズに進む児童である。

そのため、課題把握の際、空の容器をはかりに載せ、容器だけの重さを確認し、次に、その容器に小豆を入れてみせながら、小豆だけの重さを測ることが課題であることを伝えた。このように、実演したり、図で説明したりといった、視覚的な手がかりを多用することで、課題把握がスムーズに進んだ。



細かい目盛りを読むことが苦手な児童のために、この実践では、上皿はかりではなく、デジタルのはかりを使用した。

これにより、児童が本時の学習に対して苦手意識をもつことなく、積極的に取り組むことができた。

授業の視点シート

授業の視点	工夫したことや配慮したこと
① 実態把握 目標設定の工夫	<p>① 実態把握, 目標設定の工夫</p> <p>◎個別の指導計画に基づく本時の目標の設定 個別の指導計画の目標をもとに、本時の目標を設定した。毎時間の授業の目標が、個別の指導計画と関連したものになってこそ、一貫した指導が展開できるだろうと考えた。</p> <p>◎児童が自己評価できるような、児童向けの本時の目標の提示 特別支援学級で学ぶ児童生徒だからこそ、1時間の授業の目標を児童生徒が理解できる言葉で教師が明示して、児童生徒が目的意識をもって授業に臨めるようにしたい。目標は、授業が終わったときに、達成できたかを児童生徒自身が評価できるよう、できるだけ具体的なものにするよう心がけている。</p> <p>⑤ 特性に応じた支援</p> <p>普段の生活や学習の様子を観察したり、知能検査等を活用したりしながら、児童の認知面で実態を把握するよう心がけた。その結果をもとに、児童が自信をもって授業に臨めるよう、得意なことを生かし苦手なことを補う支援を考えた。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p><得意なことを生かす支援> この事例の児童は2人とも、知能検査によって、視覚的な手がかりを活用した学習が効果的であると思われました。そこで、実演してみせる、図や絵を使って説明する、目標や課題を口頭だけでなく文字で黒板に明示する、といった視覚的な手がかりを効果的に用いて授業を進めるようにしました。</p> <p><苦手なことを補う支援> 一人の児童は、視力が正常でも、細かい目盛りを読むことに困難さがありました。そこで、細かい目盛りを読まなくても重さが測れるように、デジタルのはかりを使用しました。 本時のねらいは、加法減法を用いて重さの計算をすることで、上皿はかりを読むことではありませんでした。日常生活ではデジタルのはかりを使うほうが圧倒的に多いという現状も考慮しました。</p> </div>
② 場の工夫	
③ 導入・展開・まとめの工夫, 単元計画	
④ 発問・応答・賞賛などの言葉かけの工夫	
⑤ 特性に応じた支援	
⑥ 教材・教具の工夫	
⑦ ティーム・ティーチング	
⑧ 評価の工夫	



ワンポイントアドバイス！

せっかくつくった個別の指導計画だから…、授業に生かそう！

個別の指導計画をつくったあとは、個人情報だから学校のカギ付き書庫で大切に保管しておしまい、というのではもったいない！せっかくつくった個別の指導計画は、日々の授業に積極的に活用しましょう。

活用する方法はいくつかあると思います。その一つが、個別の指導計画に書いた目標を意識しながら、毎時間の授業の目標を設定することです。

例えば、この実践では、

個別の指導計画の目標（抜粋）		本時の目標
○学習した四則演算の問題について、9割正答できる。	→	○一の位が0の、3位数－2位数や3位数＋2位数の計算を間違いなく正確にすることができる。

というつながりを意識して、目標を設定しました。

国語や算数で学習したことを、生活場面で生かそう！

通常の学級の授業ならば、問題文を読んで、解き方を友達に説明して、答えを求めたら課題達成となることが多いです。でも、この授業では、学習したことを生活場面で生かせるよう、生活単元学習の内容と結びつけた活動を取り入れてみました。

学期末のお楽しみ会では「ほろほろクッキー」を作ることを計画していました。そこで、この授業では、レシピを見ながら材料を測り取る練習をしながら、重さの加減算の学習を進めました。



そして、この授業の数日後に行われたお楽しみ会では、子どもたちは、この授業で学んだことを生かして、材料を正確に測り取ることができました（一緒にクッキーを作った下級生に、材料の測り取り方を得意げに説明している姿が印象的でした）。

このように、国語や算数で学んだことが、生活場面で生かされるような学習を取り入れられることは、特別支援学級ならではの面白さであり、醍醐味だと感じています。

実践例2 生活単元学習「転校した友だちを元気づけよう」

小学校知的障害特別支援学級

1 単元名 転校した友だちを元気づけよう

<児童の実態> 男子4人（小2：1人 小3：2人） 女子1名（小2：1人）

- ・どの児童も、様々な学習活動に意欲的に取り組むことができる。
- ・日本語の読み書きが苦手な児童が2名いる。
- ・絵を描くことに苦手意識をもっている児童が2名いる。

2 単元の目標

○転校した友だちに元気になってもらいたいという気持ちを、「100階建てのお城」の絵本をみんなで協力してつくったり、手紙を書いたりするを通して表現する。

3 本時の指導

(1) 目標

○転校した友だちを元気づけたいという気持ちを、活動中のつぶやきや絵を描くことで表現することができる。

○友だちの意見や絵、絵本等を参考にしながら、「100階建てのお城」の一部の階を描くことができる。

(2) 展開

学習の内容及び活動	児童生徒への手立て<全体、個別>
1 自分たちがつくっている「100階建てのお城」の絵本の出来上がったところまでの読み聞かせを聞く。	(前時までに、100階建てのお城の絵本の導入部分を、手分けして完成させてある。本時は、100階分の部屋を児童で手分けして描いていく活動がメインである。)
2 単元計画表を見ながら、本時の学習内容を知る。 100かいだてのおしろをかこう	・授業を通して、転校した友だちのことを気にするような発言やつぶやきがあった時は、そのことを賞賛することで、転校した友だちを元気づけるための活動であることを周囲の児童にも意識させたい。
3 活動のポイントを知る。 ・転校した友だちがよるこぶようなお城をかこう。 ・自分と転校した友だちをとう場させよう。 ・かいだんをつけよう。 ・書ける人は文しょうも書こう。	・絵を描くことへの自信の無さから、なかなか活動に取りかかれない児童がいた場合には、絵本の絵や、友達絵、友達の意見を参考にしていよいことを伝えることで、安心して活動に取り組めるようにする。
4 お城を描く。文章を書く。	・大きめのお城の枠や罫線の入ったお城の枠を用意しておき、不器用な児童も安心して活動に取り組めるようにする。
5 描いたところまでのお城を、みんなで見合う。	・転校した友だちに送るための本を描いていることや、転校した友だちがもらってうれしい気持ちになるような絵を描くことが大切であることを繰り返し伝えることで、転校した友だちを元気づけるという当初の目的を意識させながら活動に取り組みせたい。

4 評価

○転校した友だちを元気づけたいという気持ちを、活動中のつぶやきや絵を描くことで表現することができたか。

○友達意見や絵、色々な絵本を参考にしながら、100階建てのお城の一部の階を描くことができたか。

③導入・展開・まとめの工夫

単元計画の工夫

さんを えがお にしようプロジェクト
 ~ 『100かいだての おしろ』 をかいて おくろ ~

すること	
① ストーリーを かんがえよう。	
② さんの きているふくを かんがえよう。	
③ 「はじまり」と「おわり」をかこう。	
④ おしろを かこう。	
⑤ 2ねん2くみに たのむ れんしゅうを しよう。	
⑥ 2ねん2くみの ともだちと いっしょに おしろをかこう。	
⑦ みんなが かいた おしろを まとめて、ほんにしよう。	
⑧ さんに てがみを かこう。	
⑨ えほんをつつんで ゆうびんきよくに だしにいこう。	

児童に提示した単元計画表

児童による自己評価 (次項参照)

単元は、学習内容の有機的なひとまとまりであり、指導計画の上では、単元展開において順序性があります。
計画(導入)→準備・実践(展開)→反省(まとめ)という一連の展開であり、この順序をくずすことはできません。



図工の要素を盛り込んだ活動

交流学級を巻き込んだ活動

国語の要素を盛り込んだ活動

生活科の要素を盛り込んだ活動

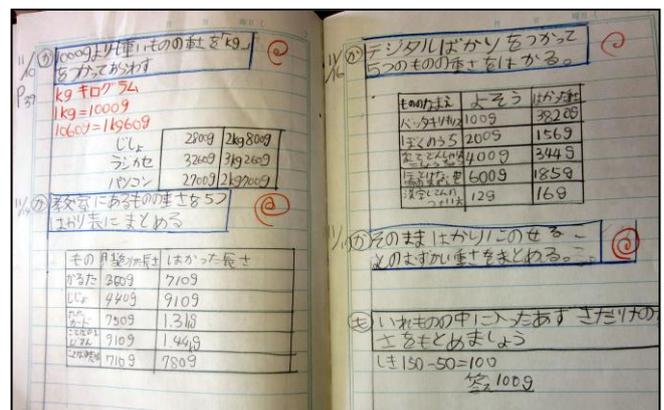
⑧評価の工夫

毎時間でき、短時間で済む自己評価の工夫

この授業に限らず、すべての授業で、目標を提示し、授業の最後に目標が達成できたかを、◎、△等で自己評価する時間を設定した。

また、自己評価が△だった時などには、評価理由を児童生徒から聞き取ることで、学習のどこに困難さを感じていたのかを把握する手がかりとし、次時以降の目標設定や支援の手立てに生かしている。

右のノートは算数の授業で実施した自己評価の様子。青で囲んである部分が目標で、その隣の赤丸が児童の自己評価。



算数のノートの例

授業の視点シート

授業の視点	工夫したことや配慮したこと
① 実態把握 目標設定の工夫	<p>③ 導入・展開・まとめの工夫, 単元計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流学級も巻き込んだ単元計画を立てた。具体的には、転校した児童が学んでいた交流学級の児童にも、100階建てのお城の一部を分担して描いてもらうようにした。また、100階建てのお城の描き方を、特別支援学級の児童が交流学級の友だちに説明する時間を設定することで、特別支援学級の児童が交流学級の友だちの前で活躍できるようにした。 ・教科学習の要素を盛り込んで単元計画を立てた。 <ul style="list-style-type: none"> ☆読み聞かせ, 作文, 手紙を書く・・・国語 ☆お城の絵を描く・・・・・・・・・・図工 ☆郵便局に出しに行く・・・・・・・・生活科 <p>⑧ 評価の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の最後に、児童自身が本時の課題を達成できたかを自己評価する時間を設けた。児童は、本時の学習を振り返り、△や○、◎、花丸等で、評価するようにした。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>児童が、よくない自己評価をした時や、教師の見とりと明らかに異なる評価をした時は、その評価をつけた理由を児童自身から聴きとり、次時以降の目標設定や支援の手立てに生かすようにしています。児童自身の言葉は、授業を改善していく上でとても参考になると実感しています。また、児童の言葉をきっかけにしながら、「次はこういう工夫をしてみよう」という相談も児童と一緒にできるので、たとえ、よくない自己評価をした時にでも、前向きな気持ちで授業を終えることができます。</p> <p>また、授業の最後に本時の学習を振り返り、◎や花丸を自分でつける活動そのものが、学習に対する自信を深める手だてになるのではないかと考えました。終わりよければすべてよし、ではないですが、授業の最後に肯定的な活動をもってくることで、児童は満足感や達成感をもちながら授業を終えることができているように感じています。</p> <p>自己評価は毎授業で必ず行うようにしているので、短時間で簡単にできるよう工夫しています。</p> </div>
② 場の工夫	
③ 導入・展開・まとめの工夫, 単元計画	
④ 発問・応答・賞賛などの言葉かけの工夫	
⑤ 特性に応じた支援	
⑥ 教材・教具の工夫	
⑦ ティーム・ティーチング	
⑧ 評価の工夫	



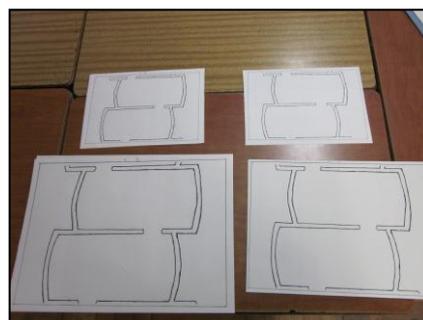
絵を描くことが苦手な子のために…

絵を描く用紙の工夫

不器用で指定された大きさの枠や紙の中に絵を収められない、ものの位置関係がうまく把握できずに、バランスのとれた絵が描けない、そんな原因から、絵を描くことに苦手意識をもってしまっている子がいます。

この授業では、そうした子たちでも安心して絵を描けるよう、色々な大きさの用紙や、マス目入りの用紙（コピー用紙）を用意しました。そして、各自が描きやすい用紙を選択し、その用紙にお城の絵を描きました。

特にコピー用紙は、「薄いマス目の線が手がかかりなるので、思い通りの絵が描きやすい」と感想を言っていた子もいました。



「参考にしてもいいですよ」という言葉かけ

この授業では、絵本や友だちの描いた絵、友だちの意見など、参考にできるものはなんでも参考にしていよ、と伝えました。

何を描いたらいいのか分からないから絵が描けない、という子にとっては、絵を描く手がかかりがあるというだけで、安心感が生まれてくるようです。

この授業でも、絵を描くことの苦手な2人が、一冊の絵本を一緒に見て、いろいろと相談をしながら楽しそうにお城を描き進めていました。

この時間の活動では、「絵の中に必ず『自分』を書き入れる」という条件をつけたので、どんな絵を描いても、それはその子独自のオリジナルの絵になります。

時には子どもたちと一緒に、子どもたちと同じ活動に取り組んでみましょう！

100階建てのお城を分担して描く活動には、先生である私も、子どもたちと一緒に取り組みました。

私は絵を描くことが苦手なのですが、「先生」が悩みながら描いては消し描いては消しをしてお城を描いている姿は、「先生でさえあんなに苦労しているんだから…」と、逆に子どもたちに安心感を与えたようです。普段なかなか思い通りの絵を描けずに「だめだ…」「できない!」とつぶやいている子たちも、この日はお城を描く活動に楽しんで取り組んでいたようです。



実践例3 自立活動「いろいろな顔」

小学校自閉症・情緒障害特別支援学級

1 題材名 「いろいろな顔」 (ソーシャルスキルトレーニング)

<児童の実態> 男子1人(小5:1人) 女子1人(小2:1人)

- ・手指の巧緻性, 対人関係, 言語発達, 認知面, コミュニケーション能力などの面で発達に遅れがあったり, 偏りがあったりする児童で個人差も大きい。
- ・課題に対して見通しが持てると離席しないで学習に取り組むことができるようになってきているが, 興味関心がもてないと活動を持続することが難しい。

2 題材の目標

- 小集団活動を通して, 友だちとの関わりをもち, 楽しく活動することができる。
- 絵カードを通していろいろな感情を表す表情があることに気付くことができる。

3 本時の指導

- (1) 目標 3つの感情に合った表情絵カードを選ぶことができる。
- (2) 展開

学習の内容及び活動	児童生徒への手だて<全体, 個別◎>
1 本時の学習内容を知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 読み聞かせ ・ この顔どんな顔 ・ ゲーム 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標と学習内容を知らせ, 見通しをもって取り組めるようにする。 ・ 学習内容について, 目安を提示し, 安定した気持ちで授業に臨めるようにする。
2 学習活動をする。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 読み聞かせを聞く。 (2) この顔どんな顔をする。 <ul style="list-style-type: none"> ○感情に合った表情絵カードを見つけた。(うれしい・かなしい・怒っている・こまっている) ○表情絵カードを作ってゲームをする。カードを作る。 (3) ゲームをする。 <ul style="list-style-type: none"> ○神経衰弱の遊び方とルールを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童の表情や何気ない言葉を細かく見取り, それぞれの気づきを共感できるよう配慮する。  <ul style="list-style-type: none"> ◎ マッチングができれば, 十分に賞賛する。 ◎ 自分の言葉でマッチングの説明ができたときには, 賞賛し意欲を高める。 ・ 学習した絵カード以外のカードに気付くように身ぶりや視線で伝える。 ◎ カード作りで道具の使い方がうまくできない場合には, 介助しながら作成できるようにする。 ・ やり方とルール説明は, ゆっくりと分かりやすい言葉で具体例を挙げながら説明する。 ・ 自分の思い通りにいかない場合があることや, 気持ちを切り替えることにより楽しく活動できることに気付かせる。
3 反省をする。 	

4 評価

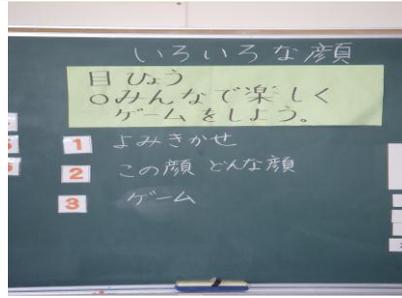
- 「うれしい・かなしい・怒っている」の感情を表情絵カードから選ぶことができたか。

③導入・展開・まとめの工夫、単元計画

見通しをもって授業に臨めるように

自立活動（小集団活動）の場合、導入（学習の目標提示と確認，読み聞かせ，絵かき歌）→展開（メイン活動）→まとめ（振り返り，反省）とパターンを決めて進めている。パターン化することによって，児童一人一人が見通しをもって授業に臨むことができるようになってくる。

「いろいろな顔」の場合

		
<p>① 導入 学習内容の確認 目標の確認</p>	<p>② 読み聞かせ 授業内容に関連した絵本を 選択</p>	<p>③ 展開→まとめ メインとなる活動（マッチン グと神経衰弱）</p>

⑥教材・教具の工夫

具体的な思考・理解を促すために

○読み聞かせの絵本の選択・・・メインとなる表情理解と関連した内容を選ぶ。今回は「しろねこしろちゃん」（福音館・こどものとも年少版）幼稚園や保育園向けの絵本を選択した。福音館の「こどものとも」は内容がシンプルでわかりやすく，話も適度な長さで読む側も聞く側も飽きない絵本のシリーズである。

○表情絵カード・・・4枚の表情絵カード（うれしいとき，かなしいとき，おこっているとき，こまっているとき）の用意。感情表現の言葉カードを複数並べ，絵カードと言葉カードのマッチングをする。1枚の表情絵カードに対し，言葉カードを複数用意することによって，表情のバリエーションを増やし，児童がそれぞれ選択できるように配慮した。

○カードゲーム・・・マッチングで使用した表情絵カードに加え，種類を増やして使用した。児童が制作する作業活動を取り入れ，自分たちが作ったカードを使用することで活動への意欲付けとなるようにした。

今回使用した「日常生活絵カード」は，本校の特別支援学級に在籍する児童の母親が，学校生活がより快適に過ごせるようにと作った絵カードです。絵カードを効果的に活用しましょう。また，Webページ上で公開されているものや市販されているものもありますので，探してみましょう。

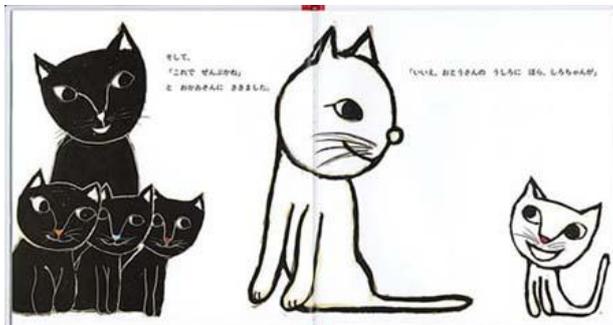


授業の視点シート

授業の視点	工夫したことや配慮したこと
① 実態把握 目標設定の工夫	<p>③ 導入・展開・まとめの工夫, 単元計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・導入の工夫・・・授業の流れは毎時間提示し、児童一人一人が見通しをもって取り組むことができるように、意識づけている。 ・展開の工夫・・・「絵本の読み聞かせ」はメインとなる活動に関連した内容を選ぶことによって導入としての工夫をした。「この顔どんな顔」へ活動が変わるときも絵本に登場した「しろちゃん」の表情を示すことによって流れをつくる。「この顔どんな顔」では、表情絵カードを提示することで、言語化できなくても模倣することができる。 ・まとめの工夫・・・授業の流れ（板書）を振り返ることによって、子どもたちががんばったことを言語化したり、教師が賞賛したりすることで次時の学習につなげる。 <p>⑥ 教材・教具の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせに使用する絵本は、授業に関連した内容のものを選んだ。この授業のねらいのひとつは、「表情絵カードを通して感情を理解すること」であり、絵本「しろねこしろちゃん」は、うれしい感情やかなしい感情がわかりやすい内容であり、挿し絵の表情もはっきりとわかりやすかったので選択した。 ・「この顔どんな顔」では、普段から使用している身近な絵カードを利用することで、活動にスムーズに入れるようにした。 ・ことばカードはパソコンで制作し、ラミネート加工を施した。裏面にはマグネットシートを貼り、黒板に掲示できるようにした。今回は「うれしい」「かなしい」「おこっている」等10枚のカードを用意した。児童の習熟度に合わせ、徐々にことばカードの枚数を増やしていく。 <div style="text-align: right;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> ・使用したカードは、教室側面に掲示し、日常の場面でも活用できるようにしている。 ・授業の展開に、カードの作成の活動を取り入れ、カードゲームの際には、そのカードを使用した。児童は、自分が作成したカードを使用するため、意欲的に活動に取り組むことができた。
② 場の工夫	
③ 導入・展開・まとめの工夫, 単元計画	
④ 発問・応答・賞賛などの言葉かけの工夫	
⑤ 特性に応じた支援	
⑥ 教材・教具の工夫	
⑦ ティーム・ティーチング	
⑧ 評価の工夫	

今回の授業で 使ったものを紹介します！

導入の読み聞かせで使用した絵本です。



しろねこしろちゃん

(うれしい感情・かなしい感情がわかりやすい内容と絵であったので選びました。)

楽しく学ぶ日常生活絵カードです。



トイレに行きたい



目を合わせる

160枚のカードから選んで使用できます。

(保健・衛生, 意思表示, 約束・コミュニケーション, 自然・災害)

ゲームで使用した神経衰弱のカードです。



楽しく学ぶ日常生活絵カードの裏に色工作用紙を貼って作りました。

実践例4 自立活動「ペットボトルボウリングをしよう」

小学校自閉症・情緒障害特別支援学級

1 題材名 「ペットボトルボウリングをしよう」 (ソーシャルスキルトレーニング)

<児童の実態>男子3人 (小5:3人)

- ・特性はそれぞれ異なるが、共通する課題として、不注意があげられる。
- ・指示や話を聞くことが難しく、ルールを理解する際に影響する。
- ・自分の考えをうまく伝えられないことがある。

2 題材の目標

- 小集団活動を通して、友だちとの関わりをもち、楽しく活動することができる。
- ルールや役割を理解することができる。

3 本時の指導

- (1) 目標 ルールを守って、楽しくゲームに参加することができる。
- (2) 展開

学習の内容及び活動	児童生徒への手だて<全体、個別◎>
1 本時の学習内容を知る。 ① 読み聞かせ ② 絵かき歌 ③ ペットボトルボウリング ④ 反省 2 学習活動をする。 (1) 読み聞かせを聞く。 (2) 絵かき歌をする。 ・黒板に注目し、描く順番に気をつけて描く。 (3) ペットボトルボウリングをする。 ・ルールを確認する。 ・順番を決める。 ・ゲームの内容を知る。 ・ゲームをする。 ・結果発表。 ・片付けをする。 3 反省をする。	・ 学習内容を知らせることにより、見通しをもって学習に参加できるようにする。 ・ 言葉だけでは理解が十分でないと予想されるので学習予定を板書しながら説明する。  ・ 絵本に注目できるように、椅子を移動してもよいことを伝える。 ◎ C 聞く態度がよい時には賞賛する。 ・ 黒板に注目できるようにお手本を見せながら、見通しをもたせる。 ◎ B 絵を描く際には介助員が説明する。 ◎ C 絵を描く際には介助員が下書きをする。 ・ 声に出してルールを読ませ、確認をする。 ・ 順番を決めるときにはどんな決め方をするのか、話し合いができるように支援する。 ◎ A 中心になって話し合いが進むように声をかける。 ・ みんなで協力して準備ができるように助言する。 ・ スタートラインに気をつけてゲームができるように、一人一人に声をかける。 ・ 表をもとに、結果発表をして、全員がんばったことを伝える。

4 評価

- ルールを守って、楽しくゲームに参加することができたか。

①実態把握, 目標設定の工夫

具体的な指導内容シートの活用

- 具体的な指導内容シートは「特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編」をもとに使いやすいようにアレンジした。個別の指導計画を立てるときに、同時に作成する。
- 実態把握→指導目標→指導目標を達成させるために必要な項目（自立活動は6区分26項目）の選定→具体的な指導内容の設定
- 今回の指導案には小集団全体の実態を記載したが、⑤の特性に応じた支援とあわせて個別の実態を下記にまとめた。

実態把握には、日頃からの観察や児童との関わりの中で何気ないところで気付くこともあります。些細なことでも、記録が大切です。

また、心理検査等のデータからの読み取りもできるようになることを勧めます。検査に詳しい先生や特別支援教育専門員の先生に相談してみましょう。



⑤特性に応じた支援

意欲的に取り組むことができ、自分の役割を意識して授業に臨める工夫

- 特性に応じた支援は、児童の実態把握を捉えることが基本となる。それをもとに目標を設定し、特性に応じた支援の手立てを設定する。

	A	B	C
実態	高機能自閉症	発達性協調運動障害	知的障害を伴う自閉症
項目	理解力・判断力が高いが、こだわりが強い。自分の予想を超える事態に対しての耐性が弱い。共感的な態度や言葉かけによる支援によって不安を回避している。	自閉的傾向、身体機能に著しい遅れが見られ、動作性能力に落ち込みがみられる。聴覚的・言語的手がかりが有効。	社会生活年齢は3歳程度の発達。物の名称は理解しているが、状況把握や指示理解は困難。小集団活動でも介助が必要。
選定	3 人間関係の形成 (4) 集団への参加の基礎に関すること	6 コミュニケーション (5) 状況に応じたコミュニケーション	2 心理的な安定 (3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること
目標・手だて	○小集団の中で、リーダー的な役割を意識しながら参加することができる。 ◎事前学習からリーダーとして意識し、ルールを決めるときや確認するときに率先して活躍するように言葉をかける。	○理解しやすいルール遊びの中で、きまりを守ってゲームに参加できる。 ◎点数を計算するときの計算係として役割をもつことによって自信をつけ、場に応じた会話ができるようにする。	○小集団の中で、気持ちを安定させて楽しく参加することができる。 ◎ピンを倒したときに賞賛しみんなから認められることで満足できるようにする。

授業の視点シート

授業の視点	工夫したことや配慮したこと
① 実態把握 目標設定の工夫	<p>① 実態把握, 目標設定の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> 「特別支援学校学習指導要領解説・自立活動編」をもとに個別の指導計画と合わせて検討する。 (シートの作成: 次ページ参照) 手順としては, 【実態把握→指導目標の設定→自立活動の内容項目の選定→具体的な指導内容の設定】 選定された項目が明確になると個別の目標や指導内容が設定しやすくなる。 課題としては, 小集団活動のときに実態に差がある場合の指導内容・課題の設定。引き継ぎや個別の指導計画, これまでの関わりから実態把握をし, 小集団にあった課題設定をおこなう。 <p>⑤ 特性に応じた支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ひとりひとりの「よいところを伸ばす」視点で特性を捉えた。 <p>A: 事前学習から「役割」を意識できるように計画した。この学習ではリーダーとして参加できるように具体的な活動内容を伝えることにより活躍することができた。</p> <p>B: 運動面や視覚的情報の理解に苦手さがあるが, 聴覚的に優位な面が多い。この学習ではボウリングで倒れたピンの計算をこちらが読み上げ, B が暗算する場面を設けることにより, 活躍する場が得られた。</p> <p>C: 状況把握や活動内容の理解に時間がかかるので, 事前学習から見通しをもてるようにパターン化した学習の流れを展開した。活動の中で拍手や「すごいね」など本人が認められることがわかり安定して学習に参加できた。</p>
② 場の工夫	
③ 導入・展開・まとめ の工夫, 単元計画	
④ 発問・応答・賞賛な どの言葉かけの工夫	
⑤ 特性に応じた支援	
⑥ 教材・教具の工夫	
⑦ ティーム・ティーチ ング	
⑧ 評価の工夫	

具体的な指導内容シート(記入例)

学年 氏名 小学5年生 A
 障害名 高機能自閉症

実態把握

障害の状態, 発達や経験の程度, 興味・関心, 生活や学習環境などについて情報収集
 ・収集した情報を障害による学習上又は生活上の困難の視点から整理

- こだわりが強い
- 自分の予想外の事柄には不安定になり, 取り組めないことがある
- 状況を把握するまでに時間がかかる

指導目標

- 場や相手の状況に応じて, 主体的なコミュニケーションを展開できる
- 小集団活動の中で自分の役割を理解して参加することができる

指導目標を達成させるために必要な項目の選定

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	「情緒の安定に関すること」 「状況の理解と変化への対応に関すること」	「他者の意図や感情の理解に関すること」 「自己の理解と行動の調整に関すること」 「集団への参加の基礎に関すること」	「感覚や認知の特性への対応に関すること」	「作業に必要な動作の円滑な遂行に関すること」	「状況に応じたコミュニケーションに関すること」

具体的な指導内容の設定

<p>「こんなときどうする」 (SST 絵カード)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな状況に対応できるようにするために具体的な事例を挙げていき, 社会的場面での具体的な行動や対処法を考えることができる。 <p>「本の読み聞かせ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見る, 聞く, 話すの基本的なスキルを絵本を通して身に着ける。 ・集中して聞く体験をする。 	<p>「ゲームをしよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲームのルールを理解する。 ・安心できるグループ作り。 ・リーダー的な役割を発揮できる場を設定し, 成功体験を積ませることによって, 自己肯定感を高める。 ・気持ちや行動の統制力をつける機会を意図的に設定する。 ・グループでの話し合いの中で自分の意見が反映する経験をする。 	<p>「校外学習に行こう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共の場でのマナーを理解し, 生活に役立てる。 ・自分で計画することで, 準備物や学習の流れに見通しを持たせる。 <p>「調理実習をしよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共同作業を通して協力, 分担をすることができる工夫。 ・調理道具の使い方がわかる。
---	--	--

実践例5 算数「あまりのあるわり算」

小学校言語障害特別支援学級

1 単元名 あまりのあるわり算

<児童の実態> 男子1人(小3)

- ・学習面では、読むことや書くこと、暗記することなどにかなり抵抗がある。
- ・算数の学習では、計算問題、文章問題ともに苦手意識が強く、集中して取り組むことが難しい。
- ・人との関わりでは、相手の表情を読むことや、距離の取り方や思いの受け止め方が苦手なため、思いついたことをすぐに言動に表してしまい、トラブルにつながることが多い。

2 単元の目標

- あまりの処理の必要な問題場面で、処理の仕方を説明することができる。(数学的な考え方)
- あまりのある除法の計算ができる。(数量や図形についての技能)

3 本時の指導

(1) 目標

- 乗法九九を1回適用する除法(包含除)「 $20 \div 3$ 」を計算することができる。

(2) 展開

学習の内容及び活動	児童への手だて<個別>
1 始めのあいさつをする。	・教師も一緒に声を出して、始まりを意識できるようにする。
2 今日の学習の予定を知る。	・本時の学習予定を確認し、見通しと安心感を持たせる。
3 本時の学習課題を知る。 チョコレートが20こあります。 一人に3こずつ分けると何人に分けられるでしょう。	・課題文の数字やキーワードにアンダーラインを引くことで、立式の手がかりとなるようにする。
4 具体物を使って分ける。	・前時の学習($18 \div 3$)を振り返り、比べることで、違いについて気付くようにする。
5 自分の考えを、提示シートに書き、発表する。	・実際にペットボトルキャップを操作することで、あまりが出てしまうことに気付くようにする。
6 $20 \div 3$ の計算の方法について話し合う。 図で確認し、式と答えをノートに書く。	・「2こあまる」ことが計算上の問題点になり計算できないときには、イラストプリントを渡して答えを導き出させる。
7 わり算クイズをして学習したことを確認する。	・やり方(具体物・図・式など)を提示シートに自由に書かせて自分の考えを発表しやすいようにする。
8 終わりのあいさつをする。	・発表することに苦手意識を持っているので、発表お助けシートを活用して、自信をもって発表できるよう配慮する。
	・図とわり算で立式したやり方を示すことで、発表した考えと比べやすいようにする。
	・「あまり」や「わりきれない」、「わりきれる」の用語を教え、意味を確認する。
	・「 $20 \div 3$ 」と答えの「6」は「=」でつなげられないため、「あまり2」をつければ「=」でつなげることを具体物で確認することで理解を促すようにする。
	・本時の取り組みを認め、次時への意欲を高める。



4 評価

- わり算(包含除)「 $20 \div 3$ 」を計算することができたか。(発表・ノート)

④発問・応答・賞賛などの言葉かけの工夫

意欲的な取り組みを引き出す、活動に自ら戻れる言葉かけの工夫

前半は、操作活動などにより、比較的スムーズな取り組みを見せていたが、後半は、教師の問いかけもむなしく、児童は、活動に飽きてしまったり、興味のあるものを見つけ離席をしたり・・・と、予定通りに進まなくなってしまった。

そんなときは、まず、目線を児童や見ている物の高さに合わせて、「今、児童は何をどうしたいのか」を感じとる。次に「そう、〇〇なの。」と児童の思いを言葉で返してあげて、可能であれば、「それじゃ、〇〇の続きができたなら、ちょっとだけやろうか。」と、禁止用語は使わずに、優先順位をつけて、語りかけるようにした。時間はかかったが、本時もAは活動に戻り授業を終えることができた。

☆ 禁止用語を使わないで、肯定的に伝えよう。

「だめ！」は、注意しているだけで、児童にとってどういう行動をとったらよいか伝わらないのです。大切なのは、注意より指示。

「こうするといいよ。」「〇〇をやってごらん。」「〇〇さん、もうすぐ〇〇ができあがるよ。」など。



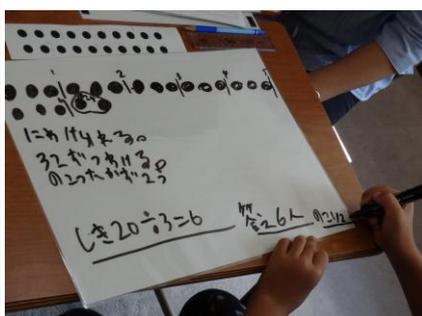
⑥教材・教具の工夫

具体的思考や集中した取り組みを促す教材・教具の工夫

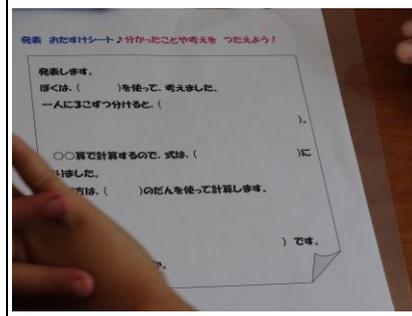
通常の学級において、自分の思いを伝えることが苦手な児童であるので、言語障害特別支援学級において、本児との丁寧なやり取りを通して、自信を持って発表することを経験させたいと考えている。また、児童にとって算数は、「やらされている感じ」が強いので、それを「やってみたい感じ」にする活動に転換していきたいと考えた。



チョコレート箱に並べたペットボトルキャップを操作している様子。3つずつに分ける活動を通して、わり算につなげたいと考えた。



イラストプリントを活用して、提示用シートに記入した。
チョコレートがきちんと並んでいるイメージが、提示シートに表すときにも活かされていたと思われる。



発表お助けシートで、発表の準備を行った。穴埋め式にしておき、記入部分はできるだけ少なくしておくことで、取り組みやすいようにした。

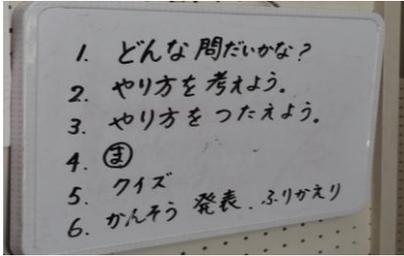
授業の視点シート

授業の視点	工夫したことや配慮したこと
① 実態把握 目標設定の工夫	<p>④ 活動への意欲を引き出す、また集中できない場面で活動に自ら戻れるような言葉かけの工夫</p> <p>中盤から後半にかけて、飽きてしまい集中できず離席をしてしまうような児童に対しては、目先のいたずらや離席に振り回されずに、禁止ではない温かい言葉や先を見通した言葉をおかけることが有効である。児童は自ら気持ちを調節して活動に戻ることができるようになる。</p> <p>教師が本人の特性や性格などを的確に把握し、本時のねらいと何をどこまでさせたいのかを、きちんとおさえておくことが大切である。</p>
② 場の工夫	
③ 導入・展開・まとめの工夫、単元計画	<p>⑥ 教材・教具の工夫</p> <p>・チョコレート箱に入れたペットボトルキャップ</p> <p>チョコレートの課題文を提示した後、分ける場面をイメージするために、お土産の菓子箱の中に、ペットボトルのキャップをチョコレートに見立てて使用することにした。キャップは、飲み物のマークや文字のない物を選んだ。数のブロックやおはじきも使うことができるが、マグネットがついていると、くっつくほうに注意がそれてしまうおそれもあるので配慮が必要である。</p>
④ 発問・応答・賞賛などの言葉かけの工夫	
⑤ 特性に応じた支援	<p>・イラストプリント、提示用シート</p> <p>イラストプリントは、黒丸を記入し、半具体物に置き換えて考えさせるために準備した。きちんと並んだ黒丸に区切りの線をつけて、自分なりに考えをまとめていこうとする児童の様子から、効果的な視覚的刺激になったと思われる。</p>
⑥ 教材・教具の工夫	
⑦ ティーム・ティーチング	<p>・発表お助けシート</p> <p>交流学級では、発表したくても、恥ずかしさや照れなどで、最後までやり遂げることができないAであるので、個別指導の場面で発表をして自信をもたせたいと考えた。そこで、発表の流れを簡単に文章化して、与えてみることにした。</p> <p style="text-align: center;">発表はじまりの合図 → やり方 → 答え の順で。</p>
⑧ 評価の工夫	



今回の授業で 使ったものを紹介します！

学習のはじめに、本時の流れをホワイトボードで確認しています。



児童に、学習の流れを伝えておくと、どこまでがんばればよいか分かり、見通しを持って安心して学習に取り組みます。

※ 4の④は、「まとめる活動」を省略したものです。

発表お助けシートです。

発表 お助けシート ♪ 分かったことや考えを 伝えよう

発表します。

ほくは、()を使って、考えました。

一人に3個ずつ分けると、()。

〇〇算で計算するので、式は()になりました。

やり方は、()の段を使って計算します。

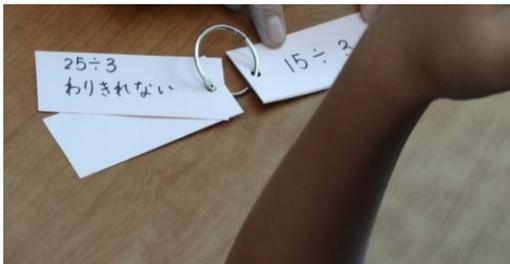
答えは、()です。

みなさんどうですか。

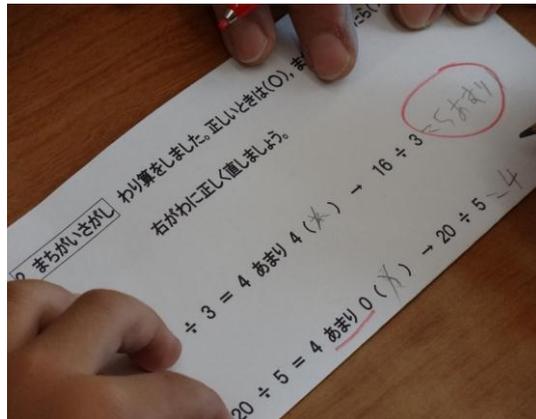
学習の定着のための

わり算クイズです。

☆ わりきれますかクイズ



☆まちがいがさがしクイズ



実践例6 国語「漢字の広場」

小学校言語障害特別支援学級

1 題材名 漢字の広場 二年生で習った漢字⑥

<児童の実態> 男子1人(小3)

- ・優しく素直で、熱心に学習に取り組む児童である。
- ・構音障害(ラ行・ダ行が混同し、曖昧になりがち)がある。
- ・新出漢字に興味をもって、繰り返し練習に取り組んでいる。

2 題材の目標

- 場面や人物の様子を、提示された漢字を使って説明しようとしている。(関心・意欲・態度)
- 作った短文を声の強弱や速さに気をつけながら発表することができる。(話すこと)
- 二年生までに学習した漢字を正しく使い、短文を作ることができる。(国語の特質に関する事項)

3 本時の指導

(1) 目標

- 提示された漢字を使って、心の中で思ったことを入れた短文を作ることができる。
- 作った短文を声の強弱や速さに気をつけながら発表することができる。

(2) 展開

学習の内容及び活動	児童への手だて<個別>
1 はじめのあいさつをする。 本時の学習内容を知る。	・昨日のことや休み時間にしたことを自由に話し合い、リラックスした楽しい雰囲気の中で学習に入る。
2 発音練習をする。 はひふへほ体操 はっきり言葉	・構音点の移動がある無意味言葉を発音させることで、苦手音の練習となるようにする。 ・手でリズムを示すことで、ゆっくり発音できるようにする。
3 本時のめあてを知る。 示された漢字と会話や心の中で思ったことを入れて、日記をつけるように書いてみましょう。	・課題文を声に出して読ませ、本時の学習への意欲を高める。 ・絵を提示することで、どんな学習をしているかを想像しやすいようにする。
4 絵を見て場面や人物の様子を想像し、日記を書く。 (1) どのようなことをしているか。 (2) 例文で練習する。 (3) 日記を書く。	・場面ごとに視点を定めながら、示された絵や漢字を使って説明できるように促したい。 ・キーワードカードを示すことで、「いつ」「だれが」「何をしているか」を確認できるようにする。 ・吹き出しカードを使うことで、会話や思ったことの想像が膨らむようにする。
5 書いた日記を読み返し、チェック表で点検して、よりよい表現に直す。	・会話文の「」は改行、思ったことの「」は改行しないことをおさえる。読点は、読みやすいように文の切れ目に打ち、句点の付け忘れに注意することを確認する。
6 できあがった日記を発表する。	・文の始まりや「」の部分をゆっくり読むことができるように言葉かけをしたり、手で合図をしたりする。
7 本時の学習を振り返るとともに、次時の学習について知る。	・本時の活動を振り返り、気をつけたところや工夫したところを認め賞賛し、次時への期待と意欲をもたせる。
8 終わりのあいさつをする。	

4 評価

- 示された漢字と会話や心の中で思ったことを入れて、短文を書くことができたか。(ワークシート)
- 声の強弱や速さに気をつけて発表できたか。(観察)

⑥教材・教具の工夫

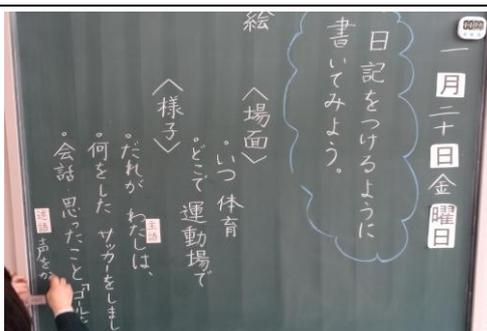
具体的思考、活動のイメージ化、意欲的な取り組みを促す教材・教具の工夫



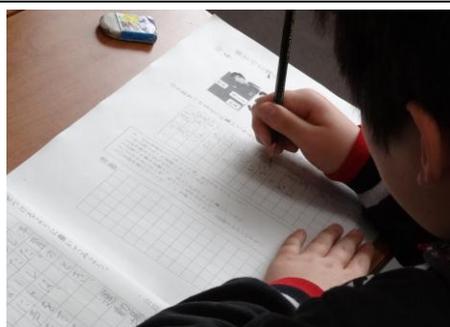
教科書には、いくつもの場面が描かれているので、焦点化するために場面ごとに切り離した。



青の吹き出しカードには「思ったこと」、ピンクの吹き出しカードには「会話」を想像して記入するようにした。



「いつ」「だれが」「何をしているか」を、はっきりさせて書くために、主語・述語・句点・読点などのキーワードカードを使って意識づけた。



下書き・チェック表・清書を一枚にまとめたワークシートに向かって、算数の学習場面の日記を書くBの様子。

⑧評価の工夫

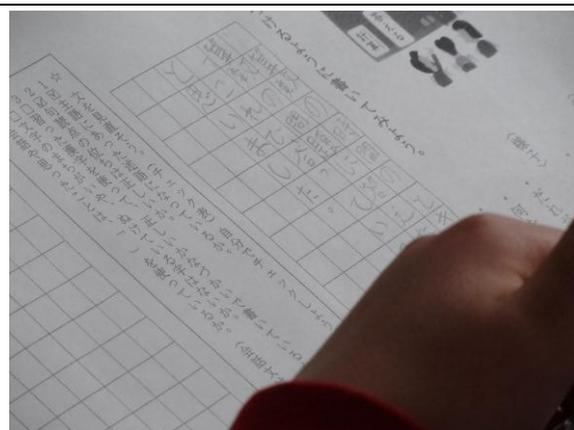
次のステップにつなげる自己評価の工夫



作文点検チェック表

下書きした後、自己評価できるように、チェックする活動を清書の前に取り入れた。(ワークシートの中央部)

この活動を丁寧に行うことが、表現する力や相手に伝える力をつけることにつながっていくと考える。



授業の視点シート

授業の視点	工夫したことや配慮したこと
① 実態把握 目標設定の工夫	<p>⑥ 教材・教具の工夫</p> <p>○教科書の場面絵を切り離して提示 教科書には、いくつもの場面と関連のある漢字が表現されているので、絵を切り離して手に取りながら場面の様子を想像し、短文を考えることができるようにした。</p> <p>○吹き出しカード 提示された絵に、吹き出しを添えると、場面や人物の様子について、さらに想像を膨らませることができるであろうと考えた。児童は、思ったこと（青枠）と会話（ピンク枠）の吹き出しカードを操作させながら、考えることができた。</p> <p>○キーワードカード 「いつ」「だれが」「何をしているか」を、はっきりさせて書くために、主語・述語・句点・読点などキーワードカードを使って意識づけた。</p> <p>○日記用ワークシート 場面絵を入れて様子をとらえやすくし、下書き、チェック、清書の順で、取り組めるようにした。</p>
② 場の工夫	
③ 導入・展開・まとめの工夫、単元計画	
④ 発問・応答・賞賛などの言葉かけの工夫	
⑤ 特性に応じた支援	
⑥ 教材・教具の工夫	<p>⑧ 評価の工夫</p> <p>○作文点検チェック表で、中間に自己評価 書いた作文を推敲するために、日記用ワークシートの中央にチェック項目を入れて確認できるようにした。</p> <p>内容</p> <p>① 主語にあった述語になっているか。 ② 句読点の位置は正しいか。 ③ 習った漢字を使って、正しいかなづかいで書いているか。 ④ 文字のまちがいや、ぬけている字はないか。 ⑤ 会話や思ったことは、「 」を使っているか。</p> <p>児童が一つ一つ確認を行い、下書きを見直した。 チェックしながら、下書きがよりよい文章になっていくのを実感している様子であった。</p>
⑦ ティーム・ティーチング	
⑧ 評価の工夫	

実践例7 自立活動「ことば遊びをしよう」

小学校言語障害特別支援学級

1 題材名 ことば遊びをしよう

<児童の実態> 男子1人(小1)

- ・本児は、構音器官や聴力に異常はないが、口や舌の動きが硬く、緊張が強いため、発音が不明瞭になってしまう。(サ行音がタ行音に置き換わっている。例 サカナ→タカナ)
- ・素直で明るく、ことば遊びや発音練習、音読などに意欲的に取り組んでいる。

2 題材の目標

- 口唇や舌を使った遊びを通して、発声・発語器官の運動機能を高めることができる。
- 「ス」を正しく発音することができる。

3 本時の指導

(1) 目標

- 呼気を調節しながら、吹くことができる。
- ことば遊びを通して、「ス」の構音に慣れ、10回中5回以上、正しい音で発音することができる。

(2) 展開

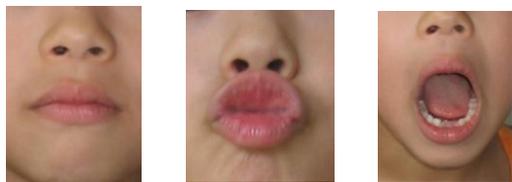
学習の内容及び活動	児童への手だて<個別>
1 はじめのあいさつをする。 (1)あいさつをし、月日、曜日、天気を確認する。 (2)自由会話をする。 (3)本時の学習について知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">「す」のことばあそびをしよう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・笑顔でアイコンタクトをとり、気持ちのよいあいさつでスタートできるようにする。 ・カレンダーを見ながら、声を出して確認させたい。 ・自由に会話を楽しむことで、リラックスした楽しい雰囲気をつくるようにする。 ・本時の学習の見通しをもたせ、意欲を持続させるために、活動内容を黒板に掲示する。 ・鏡を使って、舌の形を確かめられるようにする。
2 口と舌の体操をする。 (1)舌の出し入れ、平らにする。 (2)舌の上下左右・唇周り一周 (3)口じゃんけん	<ul style="list-style-type: none"> ・卵ボーロを使い、落とさないように舌を平らにしたり、出し入れしたりできるようにする。 ・口の形でじゃんけんを楽しみ、口唇や舌の緊張をほぐすようにする。 ・風の音をイメージできるように、教師が「スー」と音を出す見本を示す。
3 「ス」の構音練習をする。 (1)ストロー吹き (2)ストロー吹き遊び ティッシュボール転がしゲーム	<ul style="list-style-type: none"> ・ティッシュボールをストローで吹いて転がしゲームをして、呼気の調節を意識できるように促す。 ・「風の音」という言葉で「ス」の出し方を意識できるようにしていく。
4 ことば遊びをする。 「ス」の発音ビンゴゲームをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・「ス」の音を含むビンゴゲームを行い、楽しみながら「ス」の音を数多く言ったり聞いたりできるようにする。 ・ゲームの中では、発音の誤りを指摘せずに、「ス」の音を意識できるように教師が正しい発音で話すようにする。
5 チャレンジカードを使って振り返りをし、終わりのあいさつをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の活動を振り返り、良くできたところを賞賛し、次時への期待と意欲をもたせる。

4 評価

- ストローのくわえ方に気をつけながら、風の音を出すように「ス」を発音することができたか。(観察)
- ことば遊びの中で、半数以上、正しく「ス」を発音することができたか。(観察)

⑥教材・教具の工夫

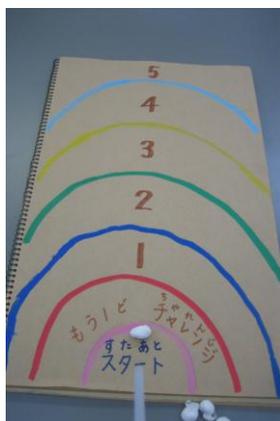
構音器官の機能向上をめざし、楽しく進んで取り組める教材・教具の工夫



グー チョキ パー

【口じゃんけん】

口の形でグー・チョキ・パーを作って、勝負をする。楽しみながら、口の周りの筋肉の緊張をほぐす。中央のブロックは、勝者のポイントに使い、積み重ねていく。うちわは、口を隠すのに使う。



【ストロー吹き遊び】

ティッシュボール転がしゲームである。

ティッシュを縦にほぼ4等分したものを両手で丸め、ストローで吹いて転がして遊ぶ。本時は、風の音「スー」でストローを吹いて転がし、得点を競った。



【「ス」の発音ビンゴゲーム】

「ス」を含むことばのビンゴである。カードを引いて発音させたり、教師の正しい音を聞かせたりする。できたところにキャップを置いていく。

1ビンゴで終わらずに、2ビンゴ、3ビンゴと進めていき、適当なところで終わりとする。

⑧評価の工夫

児童のがんばいを自信につなげる評価カードの工夫

～ ことばの教室～			小学校	名前			
チャレンジカード			年 組				
月日	曜	時間	学習したこと	ふりかえり	先生から	お家の方から	担任印
7/3	か	1	1 おくちのたいそう 2 くちじゃんけん 3 すところあそび 4 はっおんびんご.5ふりかえり		④のはっおんけんやうをがんばりました。がんばったことをはっおんびんごにしよう。	はっおんけんやうができるのは、いいね。	

ことばの教室で使用している振り返りカードです。学習内容、児童の自己評価 (◎○△), がんばりシール, 教師からの賞賛や励ましなどを記し, 交流学級担任や保護者に伝え, 連絡を取り合っています。

◎: やり方がわかって楽しく取り組めた。
○: ふつう・だいたいできた。
△: もっとがんばろう

授業の視点シート

授業の視点	工夫したことや配慮したこと
① 実態把握 目標設定の工夫	<p>⑥ 教材・教具の工夫</p> <p>○ロじゃんけん遊び 「最初はグー，じゃんけんポン」の合図で，うちわで隠しておいた口を見せ，勝負を行う。（グーとパーは，比較的簡単であるが，チョキのように口をすぼめることが難しい児童も多い。）短時間で，楽しい雰囲気作りができるのでとても効果的である。</p> <p>○ストロー吹き遊び「ティッシュボール転がしゲーム」 ティッシュボールをストローで吹いて転がすゲームである。強すぎると得点できないので，呼気の調節に役立つ。 ティッシュは2枚重ねになっていることが多いので，児童に1枚ずつにはがさせて，児童と教師で使用する。縦にほぼ4等分したものを両手で丸めて，ティッシュボールの完成となる。（手先の巧緻性を高めるのにも最適） 児童対教師で行ったり，個人記録の更新を目指したりして，楽しく取り組むことができる。</p> <p>○「ス」の発音ビンゴゲーム 「ス」の正しい発音を聞き，練習と定着をはかることができる活動と考え取り組んでいる。 縦・横・斜め，どれかに5個そろったら「ビンゴ！」，5個の単語を言って，1ビンゴ達成となる。 基本的な発音を身に付けるとともに，教師との会話ややりとりのおもしろさも体験できるゲームである。</p>
② 場の工夫	
③ 導入・展開・まとめの工夫，単元計画	
④ 発問・応答・賞賛などの言葉かけの工夫	
⑤ 特性に応じた支援	
⑥ 教材・教具の工夫	<p>⑧ 評価の工夫</p> <p>○振り返りカード（チャレンジカード） ことばの教室での学習内容と児童の自己評価，教師からの賞賛や励ましなどを記入し，がんばりシールを貼って，交流学級担任や保護者と連絡を取り合っている。児童のがんばりをみんなに認めてもらい，自信をもたせることがねらいである。 交流学級担任，保護者，ことばの教室担当教師の3者でやりとりすることによって，児童の様子を知る手がかりにもなる。 また，それぞれの場において，環境づくりや指導の結果の習熟・適用について協働して行うことにもつながる。</p>
⑦ ティーム・ティーチング	
⑧ 評価の工夫	

ことばの教室では、次のような教具を使っています！

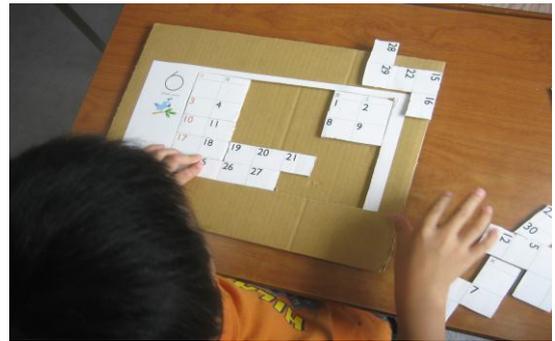


お口の体操

口を開いたり閉じたり，舌を上下左右に動かしたり，舌を平らにしたり・・・，鏡を見ながら行います。

カレンダーパズル

使い終わったカレンダーは，ボール紙に貼り付けて，いろいろなパーツに切り抜いて，パズル遊びとして利用します。タイムを計ったり，日付の読み方を学習したり，使い方はいろいろです。



風の音「ス」から、「ソ」を導き出すときに使っているカードです。



表 裏(逆さまに記入)

風の音「スー」は，ストローの端を薄くつぶして，舌と上の歯の間に挟み，口を尖らせて，正中から息を吐き出しながら作ります。

① T「風の音『スー』とのぼした後に『オ』を言ってみよう。」 C「スーオ」



ぐるりとひっくり返して

② T「今度は『ス』と『オ』の間をもっと短くして言ってみよう。」 C「スオ」

※「スオ」をもっとくっつけて，「ソ」の音を導き出します。

実践例8 国語「かるたのひみつを読もう」
小学校言語障害特別支援学級

1 単元名 かるたのひみつを読もう

＜児童の実態＞ 男子1人（小3）

- ・語中の子音を省略してしまうため、発音が不明瞭になってしまう。
- ・大勢の人や慣れない人の前だと緊張してしまい言葉を発しなくなってしまう。
- ・教科書の漢字に仮名をつけることで、音読も嫌がらず取り組めるようになってきた。

2 単元の目標

- 「かるた」を調べる活動を通して、ことわざについて知ることができる。
- 正しい発音を意識して、読むことができる。

3 本時の指導

(1) 目標

- 「かるた」を読んで、いろはかるたについて理解し、ことわざに関心をもつことができる。
- 正しい発音を意識して、声に出して読むことができる。

(2) 展開

学習の内容及び活動	児童への手だて
1 始めのあいさつをする。	・元気よくあいさつをしたり、簡単な会話をした りして教師とのコミュニケーションを図る。
2 本時の学習について確かめる。 かるたのひみつを読もう	・学習内容を確認し、見通しをもって課題に取り 組めるようにする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ① 漢字 ② 音読 ② ノート ③ かるた </div>	・ホワイトボードに学習の流れを提示し、課題が 終わったらチェックできるようにする。
3 漢字の練習をする。	・本時の漢字を「はてなボックス」で読みの学習 をする。実態に合わせて、カードの枚数を調整 する。
4 教科書の「かるた」を音読する。 ・第二段落を読む。	・音読時の緊張が強い場合や集中力に欠けると きは、一人読みではなく教師との交代読みなど音 読の方法を変えるようにする。
5 いろはかるたについて、内容を理解する。	・ことわざについて関心をもたせるために、他の ことわざを例示したり、本児が知っていること わざを発表させたりする。
6 ことわざかるたをする。 ・かるた遊び ・ことわざクイズ ・ことわざかるたの中から穴埋めクイズをする。	・本児の緊張が少ないときには、参観者にも活動 に参加してもらい、たくさんの先生方とコミュ ニケーションがとれるようにする。 ・穴埋めに形式にして答えやすくする。 ・発音しにくいことわざは、スリットを活用し、 文字に注目させ、繰り返し練習する。
7 本時のまとめをする。 ・学習を振り返る。 ・次時の学習内容を知らせ、意欲をもたせる。	・学習を振り返り、本児のがんばりを賞賛し、次 時への意欲につなげる。

②場の工夫

安心して学習できる環境

- ・子どもが安心して学習できるように人的・物的に環境を整える。
- ・学習に集中できるように刺激を少なくする。
- ・学習内容によって、活動の場所を変化させる。
- ・気持ちが切り替わり、集中が持続できる場の設定。

③導入・展開・まとめの工夫、単元計画

見通しをもって学習に参加できる工夫

- ・見通しをもって学習に取り組めるように、始めに学習の流れを知らせる。

短く分かりやすいフレーズで



- ・授業をモジュール化して、達成感を味わえるようにする。
「聞く」「話す」「書く」など活動にめりはりをつけるようにする。
集中できる時間を考えて、授業を展開する。



活動の終わりが予想できると安心



④教材・教具の工夫

分かる・できる楽しめる教材・教具の工夫



「はてなボックス」
自分の読んだ漢字をすぐ確認できる。実態に合わせて、カードの枚数や難易度を調整する。繰り返し行うことで、読みの定着につながる。



「スリットつきカード」
読む行だけが見えるカバーシート「スリットつきカード」を活用することで、読んでいる行に注目して集中して読むことができる。



「ことわざかるた」
遊び感覚で学習できる。回数を重ねることで、ことわざや語彙を楽しく習得できる。

授業の視点シート

授業の視点	工夫したことや配慮したこと
① 実態把握 目標設定の工夫	<p>② 場の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大勢の人や慣れない人の前だと緊張してしまい言葉を発しなくなってしまうため、安心して学習できる環境を整える。(観察室から参観する) ・児童の状況に応じて、関わりのある先生に意図的に活動に参加してもらうことで、活動がより活発に行われる。 ・漢字は、漢字カードを置きやすいようにテーブルを使い、音読は、集中しやすいように学習机で、かるたは、体を動かしやすいように床で行うなど、学習の場を工夫した。少し環境を変えることで、新たな気分で集中して取り組むことができる。 <p>③ 導入・展開・まとめの工夫, 単元計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の流れを①漢字②音読③ノート④かるたと短く分かりやすくホワイトボードに提示し、見通しをもち学習に参加できるようにする。課題が終わったら一つ一つチェックできるようにし、達成感を味わえるように配慮し、次の課題への意欲が高まり、集中力が持続できるようにする。 ・音読時の緊張が強い場合や集中力に欠けるときは、一人読みではなく教師との交代読みなど、音読の方法を変えるようにする。 <p>【音読の種類と効果】</p> <p>追い読み・・・単元のはじめなど正確に読ませたい場合に効果がある。</p> <p>一斉読み・・・全員に読む機会を保障できる。</p> <p>一人読み・・・自分のペースで読むことができる。</p> <p>交代読み・・・教師との読みでは、テンポをつかみテンポよく読める。</p> <p>役割読み・・・読解に役立つ。</p> <p>対話読み・・・相手の読みを聞くことができる。自分の間違いを直すことができる。</p> <p>⑥ 教材・教具の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「はてなボックス」を使って漢字の読みの学習をする。自分の読んだ漢字をすぐに確認することができる。実態に合わせて、カードの枚数や難易度を調整する。繰り返し行うことで、読みの定着につながる。 ・「分かった。できた。」の成功体験の中に少し難しい課題を入れておくことで、次の意欲へとつながるようにする。 ・「スリットつきカード」は、読んでいる行に注目させるために効果的である。 ・「ことわざかるた」は、遊びながら回数を重ねることで、ことわざを楽しく習得できる。
② 場の工夫	
③ 導入・展開・まとめの工夫, 単元計画	
④ 発問・応答・賞賛などの言葉かけの工夫	
⑤ 特性に応じた支援	
⑥ 教材・教具の工夫	
⑦ ティーム・ティーチング	
⑧ 評価の工夫	

【はてなボックスの作り方】

○ 材料

段ボール
 カッター・カッターマット
 定規・テープ・色画用紙



①

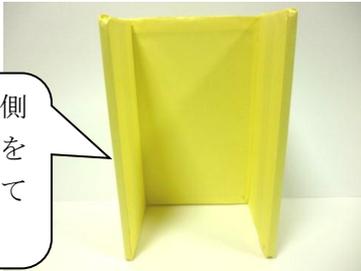
段ボールを①～⑨まで、サイズに合わせて切る。

ボックスの中で、カードが反転するので児童が飽きずに取り組めます。
 たし算・ひき算・かけ算・地図記号・もの名前などいろいろ活用できます。



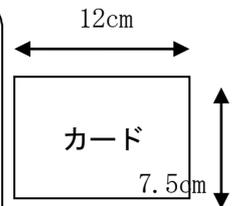
②

背面③ 側面②④を
 組み立てる。



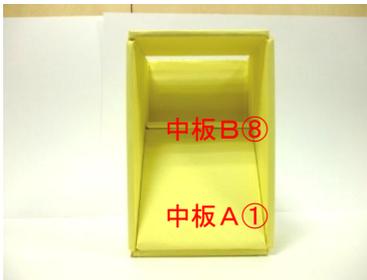
③

上部⑦をつ
 ける。
 この隙間が
 カードの入
 り口です。

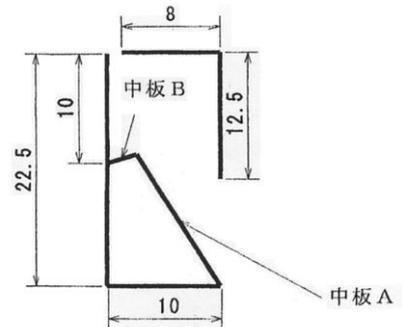


④

中板B③
 中板A①

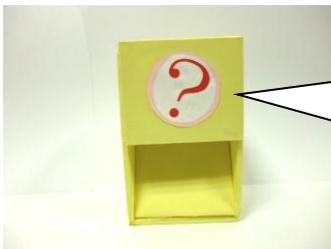


中板A①中板B⑧の角度が、カードがうまく反転できるかのポイントになります。また、カードの大きさも重要です。実際にカードを入れて、試して下さい。



⑤

最後に前
 面上部⑤
 をつけて
 完成！！



カットした段ボールを色画用紙などで包んでおくと、仕上がりがきれいです。子どもの興味関心を引くためにどんどん進化させて下さい。

ボール紙の厚みは入っていないので調整が必要です。

実践例9 作業学習「オルゴールボックスを作ろう」

中学校知的障害特別支援学級

1 単元名 オルゴールボックスを作ろう

<生徒の実態> 女子1人(中1)

- ・もの作りには意欲的に取り組むことができる。
- ・握力が弱く、指先の動きがぎこちないため、細かい作業に困難が見られる。
- ・自分からあいさつや質問、報告をすることが苦手で、言葉が不明瞭で発する声も小さい。

2 単元の目標

- 自身のテーマを設定し、手順に沿って自主的な活動ができる。
- 分からない時は質問し、補助を頼みながら、自分の力でやり遂げることができる。

3 本時の指導

(1) 目標

- 鉛筆で強く下書きをなぞり、オルゴールボックスに下書きを写すことができる。

(2) 展開

学習の内容及び活動	生徒への手だて
1 はじめのあいさつをする。 「姿勢を正しくしましょう。これから作業学習をはじめます。おねがいします。」	・あいさつの言葉を文節で句切り、はっきり発声させる。 ・声のものさしを活用し、文末で声が小さくならないよう手本を示してから始める。
2 本時の学習課題を知る。 下書きを写そう。	・生徒自身の無地のオルゴースボックスを見せた後、先に下絵を写し終えた生徒の作品を比べて見せ違いを考えさせる。
3 作業の手順やポイントを確認する。	・作品の違いに気付くよう発問し、本時の作業に見通しをもたせる。
4 ボックスに下書きを写す。 (1) カーボン紙の裏表に注意しながらテープで貼る。 (2) 下絵を重ねて、テープで固定する。 (3) 鉛筆で強く下絵をなぞる。 (4) 下絵がきちんと写っていることを確認する。 (5) 下絵をやぶかないようにテープをはがす。	・作業の手順カードと一緒に確認し、本時のポイントの部分は、生徒自身に発表させ、本時の作業の流れについて理解を確認する。 ・生徒自身の力で作業が進められるように、手順カードと作業のポイントカードを掲示しておく。
5 次時の学習内容を知る。 「色を塗ろう。」	・質問の言葉と報告の言葉は何かを発問し、「わかりません。おしえてください。」「おわりました。」を再確認する。
6 おわりのあいさつをする。 「姿勢を正しくしましょう。これで作業学習をおわりにします。ありがとうございました。」	・手順に沿って進んでいることを賞賛し主体的な活動を促す。 ・鉛筆が正しく持っているか、書く強さは適切かを確認する。
7 リラックスタイム ・生徒自身が選択した活動を行う。 (例：ぬりえ、ビーズ、PC等)	・着色した下書きと作業工程表を見せながら、本時は、どの工程であったか、次時はどこをやるのかを発問し、作業の見通しの確認をさせる。 ・声のものさしを活用し、どの声の大きさであいさつできるとよいか発問し、自ら確認できたことを賞賛する。 ・いくつかの活動を準備しておき、生徒自身にやりたいことを選択させることによって、作業中の緊張を解すとともに、生徒の頑張りを賞賛し意欲を高める

4 評価

- 集中して作業を進め、下絵を強くなぞりオルゴールボックスに写し終えることができたか。
- 作業の途中で困ったことがあったら、自分から質問したり、補助を頼んだりすることができたか。

① 実態把握、目標設定の工夫

生徒の様子や作品の観察による実態把握の工夫

授業の前や後に「リラックスタイム」として、こちらが用意した何種類かの活動の中から、生徒がやりたいことを選べるようにしている。5～10分の短い時間の「リラックスタイム」で行う活動に、次時や次の単元で行う授業や活動の予行練習を取り入れ、それを行っている生徒の様子や作品の出来上りを観察し、得意なことや苦手なことを把握して、次の授業や活動に活かすようにしている。

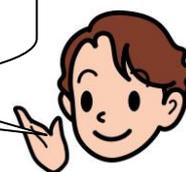
《 観察のポイント 》

《 授業で改善した点 》

- ぬりえ・・・・・・・・・・・・・・・・次時「オルゴールボックスに色を塗ろう。」
 - ・筆で細かい部分が塗れるか。 → 使いやすい道具としてポスカを使用する。
 - ・線からはみ出さずに塗れるか。 → 必要などころだけ塗るために塗らないところにはテープを貼る
→ 塗る順番を分かりやすくするために縁取りから先に塗るよう手順を示す。
- アイロンビーズ・・・・・・・・次時 12月の生活単元学習「クリスマスツリーを飾ろう。」
 - ・ビーズを指でつかめるか。 → つかみやすくするために工作用のピンセットを使用する。
 - ・見本を見ながら作れるか。 → 見本の上に透明シートを重ねてビーズを置きやすくする。
- パソコン・・・・・・・・次時1月の生活単元学習「パソコンで今年のカレンダーを作ろう。」
 - ・パソコンの操作ができるか。 → 前回のパソコンの授業内容を提示する。
 - ・文字入力ができるか。 → タイピングゲームでキーボードの場所を確認する。

「リラックスタイム」なので、パズルや折り紙、イラスト描きなど生徒の好きな活動も用意してあります。楽しそうに取り組んでいる生徒の様子から得意、不得意な面に気付くこともあります。

また、こちらで意図的に取り入れた活動でも、生徒に選ばれないことが…。そんなときは、活動に興味を引くような改善が必要ですね。



④ 発問・応答・賞賛などの言葉かけの工夫

生徒が自主的に作業を進めるための言葉かけの工夫

知的障害学級在籍の生徒の中には、抽象的なことを理解したり、頭の中で想像したりすることが難しく、自分の考えや思いを伝えることが苦手な生徒がいる。そこで、次の点に注意して言葉かけをした。

具体的に・明快に・生徒の特性（気持ち）に合わせて

例えば、「何を使いますか。」→「AとBどちらを使いますか。」と、選択肢で発問したり、「動かないようにしましょう。」→「左手で紙を押さえましょう。」のように、何をどうするのかを具体的に指示したりすると、生徒も混乱せず作業を進めることができた。

授業の視点シート

授業の視点	工夫したことや配慮したこと
① 実態把握 目標設定の工夫	<p>① 実態把握, 目標設定の工夫</p> <p>○観察 自由な時間などに予行練習的な活動を取り入れ, 生徒の実際の様子を観察することで得意なことや苦手なことを把握しやすい。</p> <p>○「リラックスタイム」 頑張った生徒へのご褒美として, また, 集中が長く続かない生徒のリフレッシュとして「リラックスタイム」を設定した。この時間に生徒の実態把握ができるような活動を意図的に取り入れることで, 次時の手立てを発見できることがある。</p> <p>○観察のポイント 生徒の活動を想定しつつ, ポイントを絞って観察するようにする。 (例) 活動「ぬりえ」→授業「ボックスに色を塗ろう。」 生徒の実態: 指先の動きがぎこちない。 活動の想定: 絵の具の筆で細かい部分の色塗りは難しいであろう。 活動の様子: 広い面は筆を使えたが, 細かい部分は思い通りに塗れなかったようだった。 実態の把握: 細かい部分をぬるのに, 柔らかい筆は扱いにくい。 授業の改善: 細かい部分はポスカ(ペン)を使うようにした。</p> <p>④ 発問・応答・賞賛などの言葉かけの工夫</p> <p>○具体的に・明快に・生徒の特性に合わせて 作業学習では, 将来の職業生活や社会的な自立に必要なことを学習するため, 教科の授業とは違った言葉かけが必要になってくる。作業の内容や手順について, 作業工程表を見せながら次の作業工程について発問する。次の作業内容が分からないようなときは, 具体的に作業工程表を指差し等でヒントを出しながら発問を繰り返す。 (例) ①「次は, 何をすればいいですか?」 ↓(指差しヒント) ②「ここまで終わりましたね。次は, どの作業をおこないますか?」</p>
② 場の工夫	
③ 導入・展開・まとめの工夫, 単元計画	
④ 発問・応答・賞賛などの言葉かけの工夫	
⑤ 特性に応じた支援	
⑥ 教材・教具の工夫	
⑦ ティーム・ティーチング	
⑧ 評価の工夫	

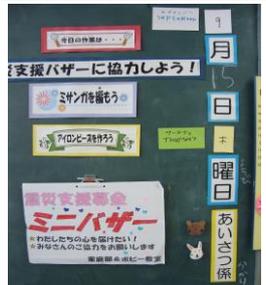
中学校の作業学習ではこんな活動をしています！

「野菜を育てよう」

		
<p>My ゴーヤ 生徒たちが担当するゴーヤの苗にそれぞれ名前をつけて、大切に大切に育てています。</p>	<p>手作りの柵 畑の周りにあったブロックを手作りの柵に取り替えました。「畑」から「ガーデン」に変身！</p>	<p>観察日記 写真でも成長記録は撮っていますが、やはり手書きの観察日記はひと味違います。</p>

		
<p>収穫の喜び 収穫した野菜は、家へ持ち帰ったり、職員室で先生に配ったりします。美味しくいただきました！</p>	<p>お楽しみ調理実習 収穫した野菜を加えて、調理実習をしました。野菜のピザがこんがり焼き上がりました！</p>	<p>絵手紙 収穫したかぼちゃを題材に絵手紙を描きました。なかなかしずい作品ができました。</p>

「ボランティアバザーをやろう」

			
<p>バザーをやろう！ 私たちにできることで協力しよう。</p>	<p>コースター アイロンビーズでカラフルに作りました。</p>	<p>ミサンガ 心を入れてミサンガを編みました。</p>	<p>準備中 もうすぐお客さんがやってきます。</p>

1 題材名 上手に聞こう

＜生徒の実態＞ 男子5人・女子4人（高1）

- ・「はっきりと就労を目指している生徒」と「何となく“卒業後は働く”と思っている生徒」, 「積極的に会話ができる生徒」と「他人に興味がなく自分からの働きかけのない生徒」が混在している。
- ・ほとんどの生徒が、話し手に注目しある程度内容を理解することはできるが、話の内容にうなずいたり返事をしたりできる生徒は少ない。

2 題材の目標

- 聞き手の姿勢や態度が大切であることに気づき、上手な聞き方のスキルを身につけることができる。
- 人とかかわることや会話をする楽しさや面白さを感じることができる。

3 本時の指導

(1) 目標

- 「聞き方のポイント」「インタビューのポイント」を必要に応じて自ら活用しながら、インタビューをすることができる。
- 身近な先生にテーマに沿ったインタビューを行い、内容に関連した質問をすることで、1つのテーマで3回程度のやりとりをすることができる。

(2) 展開

学習の内容及び活動	生徒への手立て＜全体、個別＞												
<p>1 ウォーミングアップゲームを行う。 「聖徳太子ゲーム」</p> <p>2 本時の活動についての説明を聞く。 <u>先生にインタビューしてみよう</u></p> <p>3 教師のモデリングを見て、どこが、なぜいけないのかを考える。</p> <p>4 インタビューゲームをする。 ①作戦タイム ②インタビュータイム ③グループでのまとめ ④発表タイム</p>  <p>5 本時の活動について振り返り、ワークシートに記入する。</p> <p>6 終わりの挨拶をする。</p>	<p>・「よく聞くこと」「協力して話し合うこと」がゲームに勝つポイントであることを伝える。</p> <p>・相手が答えているのに次の質問をする、答えている人の方を見ていないなどの例を提示し、そういった行動を自分がされた時にどう感じるかを考えることで、「聞き方のポイント」を再確認できるようにする。</p> <p>・3人ずつの小グループに分ける。</p> <table border="1" data-bbox="738 1243 1252 1388"> <thead> <tr> <th></th> <th>指導者</th> <th>インタビューされる人</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>グループ A</td> <td>T1</td> <td>部主事</td> </tr> <tr> <td>グループ B</td> <td>T2</td> <td>校長先生</td> </tr> <tr> <td>グループ C</td> <td>T3</td> <td>教頭先生</td> </tr> </tbody> </table>  <p>＜個別＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒Aが話し合いに参加していなかったり、黙っていたりする時には「Aはどう思うの」などの言葉かけをする。 ・生徒Bが返答に時間がかかる時には、本人の気持ちや返答したい内容をT3が聞き出し、内容を整理しモデルを示す。また、限られた時間内で質問ができるよう予め時間を提示する。 <p>＜全体＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インタビューした先生方に評価してもらうことを伝え、発表への意識が高まるようにする。 ・できるだけ全員が発表できるようにし、それぞれの感じたことを全員で共有できるようにする。 		指導者	インタビューされる人	グループ A	T1	部主事	グループ B	T2	校長先生	グループ C	T3	教頭先生
	指導者	インタビューされる人											
グループ A	T1	部主事											
グループ B	T2	校長先生											
グループ C	T3	教頭先生											

4 評価

- 「聞き方のポイント」「インタビューのポイント」を必要に応じて活用しながらインタビューをすることができたか。（観察）
- 内容に関連した1テーマにつき3回程度のやりとりをすることができたか。（ワークシート、観察）

③導入・展開・まとめの工夫, 単元計画

学習に見通しをもち, 意欲的に活動するための工夫

○ソーシャルスキルトレーニング (SST) の活用

ウォーミングアップ → モデリング・スキルの教示 → リハーサル → フィードバック

いつも同じ流れで
安心!



○授業 3回を 1 サイクル

初めてで
まだまだ不安…



1 回目

うん, ちょっと
慣れてきたぞ!



2 回目

やった!
バッチリ!!



3 回目

○授業のねらいに沿ったウォーミングアップゲームの活用



ゲームで気持ちも
リラックス!

①ティーム・ティーチング

生徒それぞれの実態に応じたきめ細かな支援をするために

グループ A (T1)	グループ B (T2)	グループ C (T3)
<ul style="list-style-type: none"> 生徒 C が質問内容を一人で決めてしまうような時には, 「他の人はどう考えているのかな」などの言葉かけをして, 全員の意見を反映できるようにする。 生徒 A が話し合いに参加していなかったり, 黙っていたりする時には, 「A はどう思うの」などの言葉かけをする。 生徒 D が話の前後に関係なく自分の意見や質問を言おうとする時には, 「前の人の話をよく聞いてごらん」などの言葉かけをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒 E が質問内容を一人で決めてしまうような時には, 「他の人はどう考えているのかな」などの言葉かけをして, 全員の意見を反映できるようにする。 生徒 F がメモをとる時には, T2 が書きたいことを聞き出し, 支援をする。また, 発音が不明瞭な時には「ゆっくり (はっきり) 話そう」などの言葉かけをする。 生徒 G には, 聞き方のポイントを再度個別に確認し, できた時には大いに称賛する。 	<ul style="list-style-type: none"> 話を切りだす人が出てこないような時は, 話し合いのきっかけを T3 が提示する。 生徒 B が返答に時間がかかる時には, 本人の気持ちや返答したい内容を聞き出し, 内容を整理しモデルを示す。また, 限られた時間内で質問ができるよう予め時間を提示する。 生徒 H, 生徒 I がインタビューする際には, 「相手に伝わるように話そう」と伝え, 声の大きさや話すスピードを意識できるようにする。

授業の視点シート

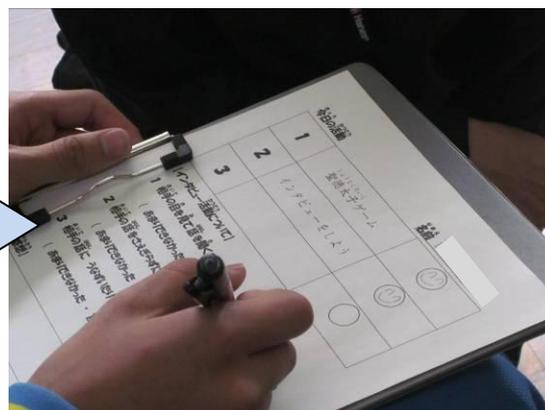
授業の視点	工夫したことや配慮したこと
① 実態把握 目標設定の工夫	<p>③ 導入・展開・まとめの工夫, 単元計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月のSSTの指導開始時から、「ウォーミングアップ → モデリング・スキルの教示 → リハーサル → フィードバック」というSSTの流れを繰り返し行ってきたことにより、生徒たちがスムーズに授業に取り組めるようになった。 ・1単位時間が長い(80分)ため、「本日のSSTのねらい」に沿ったウォーミングアップを行うよう配慮した。そうすることで、生徒たちがこの時間に何を学習したのかがより明確になった。 <p><例>: 「聖徳太子ゲーム」3文字の単語を3人が1文字ずつ分担し、「せーの」で一斉に文字を言う。他のチームはその単語が何かを当てるゲーム。聞くことに集中させたい、チームの中で話合いをさせたい時に有効。</p> <p><例>: 「協力ネームパス」ぬいぐるみなど落としてはいけない大事なものを、相手の名前を言いながらパスをする。名前を覚えさせたい、相手の顔を見るようにさせたい時に有効。</p> <p>⑦ ティーム・ティーチング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルスキル尺度(下記文献参照)での実態把握と、それぞれの教員の観察により、小グループのグルーピングを検討した。 ・各グループに、生徒の実態を考慮した教員を配置した。 <p><例>: 学級での課題(声の大きさや視線など)を継続するために、学級担任を配置。</p> <p><例>: 様々な人とかかわることができるように、学級担任でない教師を配置。</p> <p>⑧ 評価の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SSTの指導開始時から同じ自己評価表を用いた。文字を書くことや自分の気持ちを表すことが苦手な生徒がいるため、表情を使って自分の気持ちを表すことができるようにした。 ・(本時に限って)インタビューをした先生から、「上手に聞くことができていたか」の評価を生徒がもらうことで、生徒たちの意欲につなげることができた。 <p>※参考文献 「特別支援教育 [実践] ソーシャルスキルマニュアル」 上野一彦/岡田智 編著 (明治図書)</p>
② 場の工夫	
③ 導入・展開・まとめの工夫, 単元計画	
④ 発問・応答・賞賛などの言葉かけの工夫	
⑤ 特性に応じた支援	
⑥ 教材・教具の活用	
⑦ ティーム・ティーチング	
⑧ 評価の工夫	

授業実践の一部を紹介します



「インタビューのポイント」はラミネートして、手元にも置きました。声小さかったら「あれ？インタビューのポイントは何だったっけ？」と生徒に提示します。

活動した時の自分の気持ちを、表情で書き入れるワークシート。SST 指導開始時から、いつもこのスタイルで活動を振り返りました。文字を書くのが苦手な生徒も、これなら「ドキドキ」「びっくり」「バッチリ」「楽しい」「残念」を表現できますね。



臨場感も大切な場の設定。インタビューといえば、やっぱりマイクですね。テレビでよく見る記者会見をイメージして…

校長先生から「あなたのインタビュー、こんなことができていましたよ」「ここはもう少しだったね」とその場で評価をもらいました。
「僕、気が付いたところが上手くできていた！」



実践例 11 総合的な学習の時間「和（日本文化）を味わおう」

特別支援学校高等部

1 単元名 和（日本文化）を味わおう

＜生徒の実態＞ 男子 19 人・女子 4 人（高 1）

- ・穏やかな生徒が多い反面、自分を表現することが苦手な生徒が多く、日常的な挨拶でも相手の顔をしっかりと見てははっきりとあいさつできる生徒は少ない。
- ・茶道については、初めて体験する生徒がほとんどである。

2 単元の目標

- 友だちと協力して調べることで、日本の伝統文化を知ることができる。
- 主体的に体験活動に取り組み、日本の伝統文化の特色を感じたり、理解したりすることができる。

3 本時の指導

(1) 目標

- 調べたり、学んだりした茶道の作法を自ら行ったり、教師の動きを真似したりすることができる。
- 茶道体験の感想や特徴をワークシートに記入したり、発言したりすることができる。

(2) 展開

学習の内容及び活動	生徒への手立て
1 はじめの挨拶をする。 2 本時の活動を知る。 ・前時に学習した作法（所作、心得）について話し合う。 3 クラス毎に活動の準備をする。 活動① 茶をいただく。 活動② 茶会の様子を観察する。 活動③ ワークシートに取り組む。 4 「茶会」を開始する。 5 感想を発表する。 6 まとめをする。 7 終わりの挨拶をする。	・茶会の雰囲気味わうこと、落ち着いて移動や活動を行うこと、思いやりの気持ちを大切にすることなどについて、生徒の言葉を取り上げながら確認していく。 ・茶会の厳粛な雰囲気を感じることができるように、活動①はできるだけ正座で臨むようにする。 ・T1は全体の動きを見ながら、生徒の所作、話の聴き方などについて助言したり、手本を示したりする。 <活動①の支援> ・自分の順番を待てない生徒には、順番を意識できるように顔写真や名前カードをミニホワイトボードに提示する。 <活動②の支援> ・お点前に集中することが難しい生徒には、ワークシートを見せたり、ポイントカードを見せたりしながら、所作の復習を行い、お点前に注目できるようにする。 <活動③の支援> ・印象に残ったことや感動したことなどを尋ねながら、生徒の言葉で記入できるよう支援する。 ・ワークシートに沿って茶道体験を振り返りながら、どんな気持ちになったのかを、共感的な言葉かけで引き出すようにする。

4 評価

- 作法の所作や心得を実践して、お茶をいただくことができたか。（観察）
- 茶室や作法の特徴に気づくことができたか。（発表、ワークシート）

②場の工夫

茶道の雰囲気を五感で感じとることができる工夫

和室（生活訓練室）
で行う。

お香を焚く。

全員が同じように
体験する。

掛け軸，生け花を
置く。

正座で取り組む。

本物を見る。
(GTの招聘)

※GT：ゲストティーチャー

静粛な雰囲気で
行う。

制服で臨む。

③導入・展開・まとめの工夫，単元計画

生徒の興味関心を軸に，テーマに迫っていくための工夫

日本に昔からあるもの
のといえば…

・お城 ・畳 ・おにぎり ・着物
・そば ・刀 ・和太鼓 ・梅干し など

いつから？
どんなもの？ どうやって調べる？

・インターネットで…
・図書室で…

見てみたい！
やってみたい！

・剣道の体験（防具や道着を見る，竹刀を振ってみる）
・箏の体験（音楽との関連）



茶道体験へ



授業の視点シート

授業の視点	工夫したことや配慮したこと
① 実態把握 目標設定の工夫	<p>② 場の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・掛け軸や生花を設置し，GTより掛け軸の内容の説明，生花が醸し出す季節感について説明を受けた。 ・教室ではなく，和室（生活訓練室）で行い，できるだけ正座で取り組むようにした。正座が難しい生徒には，GTより静かに足を崩す方法や，しびれを和らげる方法を伝授していただき，茶会当日にも生徒が自ら実践できるようにした。 ・香を焚き，場の空気全体が“和の空間”となるようにした。重度の障害のある生徒にも，五感で雰囲気を楽しむことができるように配慮した。 ・教師はできるだけ落ち着いた声で指導にあたり，静粛な雰囲気を保つようにした。そうすることで生徒たちも自然に私語がなくなり，長時間であるにもかかわらず，静粛な雰囲気を全員が共有することができた。 <p>③ 導入・展開・まとめの工夫，単元計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「総合的な学習の時間としての取り組みである」ということを明確にするため，茶道の体験だけにならないよう，「生徒の興味・関心 → 調べ学習 → 体験 → まとめ」という単元計画を行った。 ・学年の中にも茶の心得のある教師がいたが，「本物を知ること，体験すること」に重点を置きたいと考え，GTを招聘した。GTには着物を着て来校していただくことや場の設定（掛け軸や生花など）をお願いし，生徒ができる限り「本物」を体験できるようにした。 ・総合的な学習の時間では体験として茶道を行ったが，他教科との関連として， <ul style="list-style-type: none"> [音楽] 箏の学習 [特別活動] 地域交流（ライオンズクラブの方々と餅つき会） [美術] 創作書道，年賀状の作成 <p>などの学習を行い，「和（日本文化）を味わう」という2～3学期の学習の統一感を出すことができた。</p>
② 場の工夫	
③ 導入・展開・まとめの工夫，単元計画	
④ 発問・応答・賞賛などの言葉かけの工夫	
⑤ 特性に応じた支援	
⑥ 教材・教具の工夫	
⑦ ティーム・ティーチング	
⑧ 評価の工夫	

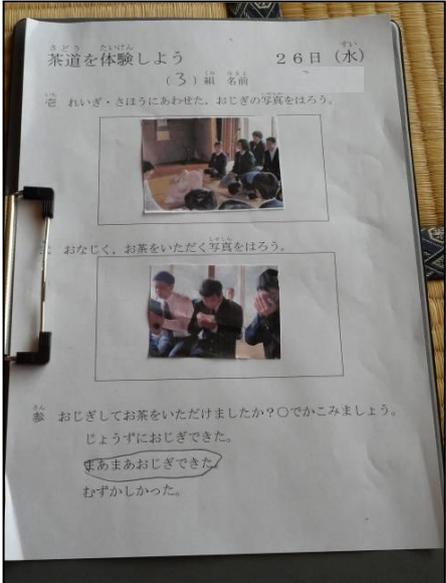
授業実践の一部を紹介します



同じ時期に、音楽では箏の学習を行いました。茶道で習った正座のおかげで、姿勢もとっても良くなりました。
♪さくら～ さくら～♪

<p>①</p> <p>おかしをちようたい します。</p>	<p>②</p> <p>かい織をおって、 若ポケットにしまろう。</p>	<p>③</p> <p>お手前ちようたい いたします。</p>	<p>④</p> <p>若手にのせて、 若手をそえる。</p> <p>↓</p> <p>時計回りに、 2回まわす。</p>	<p>⑤</p> <p>あわまで、いただ きましょう。</p>	<p>⑥</p> <p>のみ口をゆびで ふく。</p> <p>↓</p> <p>反時計回りに、 2回まわす。</p>	<p>⑦</p> <p>感謝の気持ちを こめて。</p> <p>「おそろさまでした。」</p>
------------------------------------	--	-------------------------------------	---	-------------------------------------	--	---

手元で茶道の所作を確認するための「茶道のポイントカード」。
これがあれば、「次は何だっけ？」と思っても安心



書くことが苦手な生徒にはこんなワークシートを用意。質問に合った写真を選んで貼ったり、丸で囲んだり…
これなら時間をかけずに、振り返りができますね。

本物を知ることはとても大切な体験です。
お茶の先生をお招きして、本物を教えていただきました。



実践例 12 数学「ボウリングをしよう」

特別支援学校中学部

1 題材名 ボウリングをしよう (10 までの数の理解)

〈生徒の実態〉 男子5人・女子2人 (中1, 2)

- ・ゲームには興味を示し、楽しむことができるグループである。
- ・数に関しては、1対1の対応、1から10までの数唱ができる。
- ・数を量としてとらえることはまだ難しいが、1から10までの数で数詞を聞いて、数字を書いたり、数字カードを取ったりすることができる。

2 題材の目標

○ゲームを通して、具体的な事物を対応させながら、数えたり、集めたり、比較したりすることができる。

3 本時の指導

(1) 目標

- 5, 10 という数のかたまりを作って、数を数えることができる。
- 倒れたピンの合計本数が分かり、数字カードで示すことができる。

(2) 展開

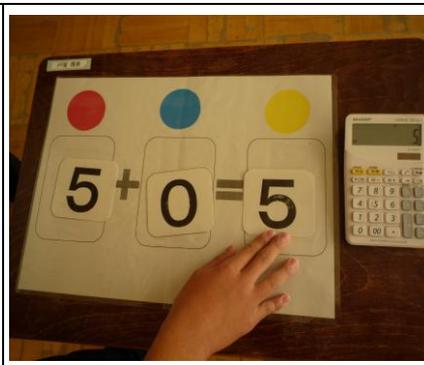
学習の内容及び活動	生徒への手だて
1 始めのあいさつ 2 日にち、名前の確認をする。 ・当番が黒板に日にちを書く。 ・自分の名前カードを貼る。	・「今日」の日付が分かるように、カレンダーで確認する。
3 ボウリングをする。(1人2回) <u>たくさんたおして、数えてみよう!</u> ① 倒したピンを数え、数字カードを貼る。 ② 数字カードに対応しながら、具体物を数える。 ③ 2回の合計本数を計算機で出す。 ④ 合計本数を数えて、数字カードと数図カードを貼る。	〈全員〉 ・生徒が数える数詞の最後をT1と一緒に大きな声で言うことで、最後の数詞を意識して、数字カードを選べるようにする。 〈個別〉・具体物は、生徒の実態や興味に合わせて用意する。 A・B, C (T1) → ミニボウリングピン D, E, F (T2) → マッチ棒 G, H (T3) → キャラクターのカード
4 まとめをする。 ・1人ずつ合計本数を発表する。 ・一番多く倒した人を知る。 ・次時の学習について知る。	〈全員〉 ・計算しやすいように数式枠を用意する。 ・数字と具体物を対応していく中で、全体の数が分かるようにする。 ・数字カードと合わせて数図カードも示すことで、「多い」「少ない」ということが意識できるようにする。
5 終わりのあいさつ	・一覧表を示しながら、合計本数を正しく出せたことを賞賛し、次時への意欲付けを図る。

4 評価

- 数字シートや対応枠を使い、5, 10 という数のかたまりを作って、具体物を数えることができたか。
- 倒れたピンの合計本数が分かり、数字カードで示すことができたか。

⑥教材・教具の工夫

数の学習を行うための教材・教具の工夫



ボウリングは生徒が大好きな題材。楽しみながら、各場面で色々と数の学習を設定することができる。

2回の合計本数を計算機で出す時に使用する数式枠。



倒したピンの数や合計本数を数える時に使用する教材。生徒の実態に応じた物を用意した。数字シートや対応枠は、5、10で仕切るようにして、5、10のかたまりを意識できるようにした。

ボウリングの結果を表した一覧表。合計本数は、数字カードと数図カードを対応して貼るようにした。

⑦ティーム・ティーチング

学習場面に応じた役割分担

場面	教師の役割
1 始めのあいさつ 2 日にち・名前の確認 4 まとめ 5 終わりのあいさつ	・MTが主授業者となり全体をリードする。AT（2名）は、集団全体を見ていて、適時支援が必要な生徒にかかわりを持ち、学習課題の理解を助けたり、活動を補助したりする。
3 ボウリング ②・③・④の活動	・実態に応じて小グループを作り、教師は担当するグループを支援する。同一の課題を少人数できめ細やかな配慮のもとに学習ができる。同じ教室内で行う中で、教師間で学習の進み具合を調整し合いながら進める。



授業の視点シート

授業の視点	工夫したことや配慮したこと
① 実態把握, 目標設定の工夫	<p>⑥ 教材・教具の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒が楽しみながら、数の学習に取り組める題材としてボウリングを取り上げた。 ダイナミックさと生徒の意欲を引き出すために、教室全体で行い、ピンとボールは実物を使用した。 10 までの数の理解というねらいと 2 回投球という活動を踏まえて、ピンは 5 本に設定した。 結果一覧表には、透明のビニールテープを全体に貼ることで両面テープで数字カードを貼っても、破けることなく繰り返し使用できた。 2 回の投球の結果を貼る場所を赤と青で色分けをした。その色は数式枠にも対応し、1 回目と 2 回目を意識できるようにした。 結果一覧表の合計本数は、数字カードと数図カードを対応して貼るようにし、量も意識できるようにした。数図カードは黒字に黄色の丸シールを貼ることで見やすくした。 倒したピンの数や合計本数を数える時は、実態に応じて 7 人を 3 つのグループに分けた。キャラクターカード、マッチ棒、ボウリングのミニピン等を用い、具体的操作を通して理解の深まりを図った。 <p>⑦ ティーム・ティーチング（学習場面に応じた役割分担）</p> <ul style="list-style-type: none"> 始め、終わりの挨拶、まとめ等、全体の場では T 1 が中心に進行し、T 2、T 3 は適宜支援が必要な生徒にかかわるようにした。 ボウリング中は、進行と倒れたピンの数の計算の支援・投球の支援・数字カードを選択して貼る時の支援の 3 つの場面を T が分担して役割を担い、生徒が活動にスムーズに取り組めるようにした。 数の計算で、生徒の実態に応じて 3 グループに分かれて活動する時は、それぞれのグループを T が一人ずつ担当することで、能力に応じた活動を同時に進めることができた。
② 場の工夫	
③ 導入・展開・まとめの工夫, 単元計画	
④ 発問・応答・賞賛などの言葉かけの工夫	
⑤ 特性に応じた支援	
⑥ 教材・教具の工夫	
⑦ ティーム・ティーチング	
⑧ 評価の工夫	

教材準備のための ワンポイントアドバイス！

ポイント1 ボウリング場でゲット！

ボウリングを行う場合、やはり、本物のボウリングのピンとボールを使って、ダイナミックさを出したいものです。



そんな時は、ぜひボウリング場に足を運んでみて下さい。古くなったピンとボールをボウリング場でいただけるケースが多いです。本物のピンをゲットして、子どもたちとダイナミックなボウリングを楽しみましょう！



ポイント2 使いやすく、長持ちするために！



授業で使うカードやシートはラミネートすると丈夫になり、長持ちします。また、子どもたちも操作しやすくなります。

ラミネートしたカードやシートの四つ角は、コーナーカッター『かどまる』を使えば、簡単に丸くすることができます。教材は、子どもたちのことを考え、1つ1つ丁寧に作りたいですね。

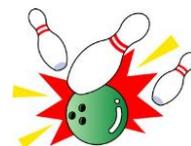


『かどまる』



結果一覧表

結果一覧表の模造紙には、透明のビニールテープを隙間なく全体に貼りました。そうすれば、数字カードの裏面に両面テープを貼るだけで、取り外しが簡単にでき、なおかつ破れることなく繰り返し使うことができます。ちょっとした工夫で、使いやすく、長持ちする教材に大変身です！



ポイント3 100円ショップへGO！



倒したピンの数や合計本数を数える時に使用したケースやミニボウリングは、100円ショップで購入しました。100円ショップには、教材として使えそうな物がたくさん眠っています。ぜひ、休日などに足を運んで、ゆっくりお宝をさがしてみるのもいいですよ。



参考・引用文献

- 小・中学校学習指導要領解説 総則編 文部科学省 平成 20 年
- 特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編 文部科学省 平成 21 年
- 阿部芳久著 「知的障害児の特別支援教育入門」 日本文化科学社 平成 18 年
- 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所著 「特別支援教育の基礎・基本」
ジアース教育新社 平成 21 年
- 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所著 「特別支援学級の Good Practice」
ジアース教育新社 平成 18 年
- 茨城県教育委員会 「推進しよう交流及び共同学習」 平成 24 年
- 茨城県教育委員会 「みんなで取り組もう 高等学校における特別支援教育（基本編・応用
編）」平成 22, 23 年
- 茨城県教育研修センター 「特殊教育諸学校におけるチーム・ティーチングの在
り方」平成 12 年度
- 岩手県立総合教育センター 「特別支援学級経営の手引」 平成 24 年度
- 岩手県立総合教育センター 「特殊教育における教科指導の在り方に関する研究」
平成 18 年度
- 大阪府教育研究所連盟教育相談部会編 「気になる子どもへの支援のヒント」
平成 21 年
- 文部科学省 「日常生活の指導の手引（改訂版）」 平成 6 年
- 文部科学省 「生活単元学習指導の手引」 昭和 61 年
- 坂本裕監修 「特別支援学級はじめの一步 ーまずは押さえてたい 100 のポイントー」
明治図書出版 平成 23 年
- 上野一彦・岡田 智 編著 「実践 ソーシャルスキルマニュアル」 明治図書
平成 18 年
- 熊谷恵子・青山真二編著 「長所活用型指導で子どもが変わる」 図書文化社
平成 14 年
- 笹森洋樹・廣瀬由美子・三苫由紀夫編著 「新教育課程における発達障害のある子どもの自
立活動の指導」 明治図書 平成 21 年
- 石田さとみ作 「楽しく学ぶ日常生活絵カード」 エスコアール 平成 23 年
- 太田正己著 「特別支援学校の授業づくり基本用語集」 梁明書房 平成 20 年
- 太田正己著 「特別支援教育の授業づくり 46 のポイント」 梁明書房 平成 18 年
- 辻 誠一著 「特別支援教育のコツと技 教師力アップのために」 日本文化科学社
平成 20 年
- いわいとしお著 「100 かいだてのいえ」 偕成社 平成 20 年
- いわいとしお著 「ちか100 かいだてのいえ」 偕成社 平成 21 年
- 井上賞子・杉本陽子著 「特別支援教育 はじめのいっぽ！」 学習研究社 平成 20 年
- 井上賞子・杉本陽子著 「特別支援教育 はじめのいっぽ！ 算数のじかん」 学習研究社
平成 23 年
- 井上賞子・杉本陽子著 「特別支援教育 はじめのいっぽ！ 国語のじかん」 学習研究社
平成 23 年
- 尾崎洋一郎・草野和子著 「高機能自閉症・アスペルガー症候群及びその周辺の子どもたち」
同成社 平成 17 年
- 湯汲英史著 「子どもが伸びる関わりことば 26」 すずき出版 平成 18 年
- 山中伸之・内田聡 「できる教師の子どもを変えるステキな言葉」 学陽書房 平成 21 年